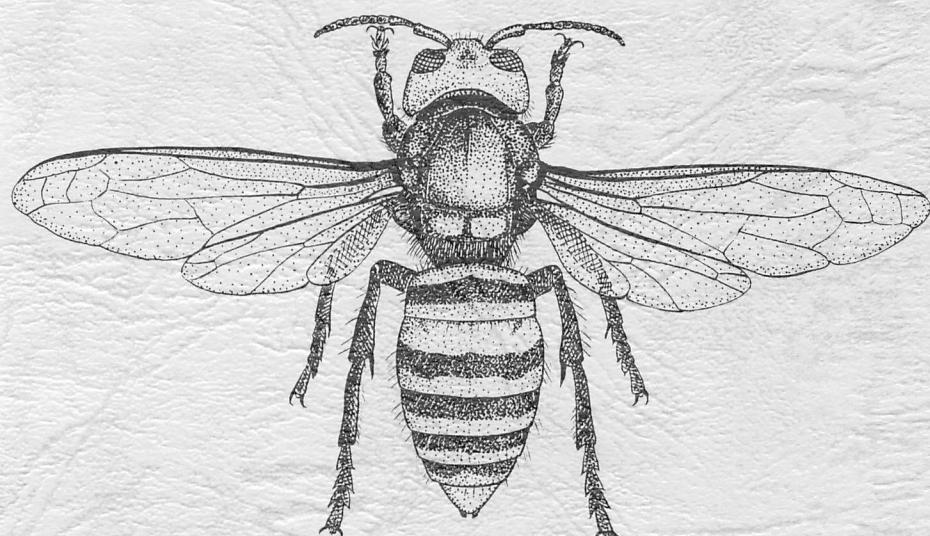


IRATSUME

1995

NO.19



但馬むしの会

但馬むしの会会則

1. この会は、但馬むしの会と称する。
2. この会は、但馬地方の昆虫研究（昆虫相の解明等）、および会員相互の親睦をはかることを目的とする。
3. この会は、その目的を果たすために次のことをする。
 - (1) 会誌 IRATSUME（年1回）の発行
 - (2) 採集会などの催し
4. この会は、昆虫に興味をもち、会の目的に賛同する人は誰でも入会できる。
5. 会員は、会を維持するため、年額（3,000円）を負担しなければならない。
6. 会員は、会誌などの配布を受け、またこれに投稿することができ、催しに参加することができる。ただし、会費滞納が2か年以上継続し、通知しても連絡のないときは自然退会とみなす。
7. この会を運営していくため、本部に事務局をおき、会の代表とする。
8. 総会は年1回とし、役員改選、会則の改正など、会の運営上の重要事項を審議する。議決は、出席者の過半数の賛成を必要とする。
9. この会の会計年度は、暦年とする。

《 目 次 》

永幡嘉之：但馬の蝶 3題	1
永幡嘉之：西日本でカシワを食樹としているウラジロミドリシジミの記録	4
永幡嘉之：体にアリの頭部をつけた甲虫の記録	10
永幡嘉之：ウスバシロチョウの分布調査IV	11
黒井和之：美方郡のウスバシロチョウ	13
黒井和之：浜坂町久斗山本谷で採集した甲虫類	16
黒井和之：浜坂町城山で得た甲虫	18
永幡嘉之：ウシカメムシの採集記録	19
永幡嘉之：ナガフトヒゲナガゾウムシの記録 2例	20
永幡嘉之：キイロシリブトジョウカイを美方町で採集	21
宮垣友洋：奈佐森林公园における蝶・トンボの記録	22
宮垣友洋：豊岡市で採集した蝶・トンボ	26
永幡嘉之：アサギマダラの越冬幼虫の確認例	36
黒井和之：但馬の蝶分布資料 シジミチョウ科ミドリシジミ族（その2）	38
上田尚志：但馬におけるトンボの採集記録（3）	50
永幡嘉之・日暮卓志：但馬におけるトンボの採集記録	57
高橋寿郎：但馬地方の昆虫相に関する文献（兵庫県甲虫相資料・297）	59
高橋寿郎：クロバネヒメテントウが自宅電灯に飛来（兵庫県甲虫相資料・298）	60
高橋寿郎：兵庫県のハムシ研究史（1）（兵庫県甲虫相資料・299）	61
谷角素彦：但馬の蝶に関する覚え書き	70

表紙：オオスズメバチ

足立義弘・画

但馬の蝶3題

永幡 嘉之

1. 但馬海岸におけるホシミスジの化性に関する観察例

ホシミスジ *Neptis pryeri* は、但馬では海岸部と閑宮町などの低山地とに局地的に分布している。

1994年は全般的に気温の高い年で、本種の幼虫の成長段階に興味がもたれたので、美方郡浜坂町城山で9月5日に調べてみた。食草はミツバイワガサである。

その結果、幼虫は食痕のある葉の先端をつづって巣を造り、中に潜んでいるものと、越冬巣と思われるものをつくっているものとに大別された。ただし、越冬巣と判断したものは、たまたま葉が小さいために巣の部分しか残らなかったものである可能性もあり、両者は本質的には異ならないのかもしれない。観察した数をまとめると、以下の通りである。

1) 食痕のある葉の先端に造られた巣(図1)

- ・幼虫がいた巣 39個
- ・幼虫がない巣 152個

2) 越冬巣と思われるもの(図2)

- ・幼虫がいた越冬巣 7個
- ・幼虫のいない越冬巣 4個

3) 葉上にいた幼虫 1頭

また1)の、葉の先端に造られた巣のうち、巣が緑色で新しいものは4例で、そのうち3例については中に幼虫がいた。他は褐変しており、幼虫が摂食を行っている様子はなかった。幼虫がない巣のほうが多いが、すでに別の場所で越冬巣をつくっている可能性もある。また、幼虫が中にいたものについては、この後幼虫が別に巣を造るのかどうかなど、不明な点が多い。

近畿地方や中国地方の低山帯に分布する本種は、年に2回発生するといわれて

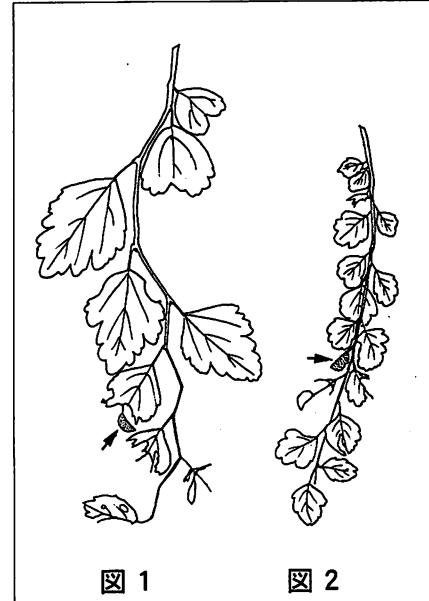


図1

図2

きた¹⁾. しかし、但馬に産するものは成虫の消長を追う限りでは、年に1化のようである。最近では山陰地方の本種が年1化であると明記した文献もある²⁾。今回の調査でも、大部分の幼虫はすでに休眠状態に入っていると思われ、年1化を裏付けるものであろう。

1994年8月15日に、同所で飛翔中の本種の2化個体らしきものを目撃したが、静止することなく飛び去り、確認はできなかった。8月21日に再調査を行い、3頭を捕獲確認後放したが、いずれも傷みが激しく1化の生き残りと考えられた。気温の高い年に、例外的に2化が出現する可能性もある。今後、継続的な調査が必要である。

2. 氷ノ山山頂でのツマグロヒョウモンの観察例

ツマグロヒョウモン *Argireus hyperbius* は、現在但馬で増加していることが注目されている。雄の飛翔力は強いようで、標高の高い山頂で見かけることもあるが、最近では扇ノ山上山高原（標高約900m）で雌を採集したことがあり（1♀, 20-VII-1992），高標高地に雌が出現するようになったことは、分布の拡大を示す現象のひとつとして注目される。

1994年8月31日、養父郡関宮町氷ノ山山頂（標高約1500m）で、ヒヨドリバナを吸蜜に訪れるツマグロヒョウモンの雄を目撲した。正確な数は数えていないが、常に2～3頭が訪れていた。いずれも翅に傷みのないきわめて新鮮な個体であった。また、同じ場所で、雌に交尾を試みる雄を発見した。交尾は成立しなかったが、雌は羽化不全で翅がうまく伸びていない、新鮮な個体であった。

この観察例は、山頂で本種が発生した可能性を示唆するものであるが、幼虫は発見していない。冬季に積雪の多いこの地域で本種が越冬する可能性はまずないと考えているが、雌の飛翔力もかなり強いのではないだろうか。

氷ノ山の山頂付近は広くチシマザサに覆われているが、登山道の周囲にはニヨイスミレが一面に生えている。今後、山地のこのような環境で発生するものかどうか注意を払っていきたい。

3. 久斗山山系のゼフィルスの記録（続報）

筆者は本誌前号において、浜坂町久斗山山系で採集したゼフィルスの記録を報告した³⁾が、本年も若干の採集を行ったので報告する。

美方郡浜坂町本谷（標高約350～450m）

ウラクロシジミ *Iratsume orsedice*

(1♂, 2-VI-1994; 1♂, 15-VI-1994) 6月2日にすでに雌も発生していた。

ミズイロオナガシジミ *Antigius atillia*

(1ex., 15-VI-1994)

ウラキンシジミ *Ussuriana stygiana*

(1♂ 1♀, 15-VI-1994)

オオミドリシジミ *Favonius orientalis*

(1♂, 12-VI-1994; 1♂, 15-VI-1994) 共に、14時～15時頃に活動中の個体を採集した。

採集したものは以上であるが、他に1994年6月2日に浜坂町本谷で夕刻活動中のフジミドリシジミと思われる種を目撃している。水色に輝きながら、ブナの梢上を活発に飛翔していたが、木が高く採集できなかった。久斗山山系にはブナとイヌブナが広く分布し、フジミドリシジミも広く分布していることが予想されるので、採集して確実な記録を出したい。

また、1994年6月7日には、城崎郡香住町余部市午のアセビ谷で、活動中の多くのウラクロシジミを目撃した。

これまで浜坂町本谷を中心に調査をしてきたが、香住町側や浜坂町中小屋のブナ林も面積が広く、今後調査してみたい地域である。

参考文献

- 1) 福田晴夫ほか (1983) 原色日本蝶類生態図鑑 (II), 保育社, 大阪.
- 2) 淀江賢一郎 (1994) ホシミスジ, 山陰のチョウたち (山陰むしの会編) :107, 山陰中央新報社, 松江.
- 3) 永幡嘉之 (1994) 浜坂町久斗山のゼフィルスの記録, IRATSUME18:43.

西日本でカシワを食樹としている ウラジロミドリシジミの記録

永幡 嘉之

I. はじめに

ウラジロミドリシジミ *Favonius sapharinus* が、東日本ではカシワを、西日本ではナラガシワをそれぞれ食樹としていることはよく知られている。西日本でも、対馬や隠岐など、日本海の離島ではカシワを食樹としている¹⁾。

兵庫県でも、過去にカシワから本種の卵を採集したという報告がある²⁾。筆者は、このたび西日本でカシワを食樹としているウラジロミドリシジミを複数の場所で確認したので、報告する。

II. 兵庫県北西部および鳥取県東部におけるカシワとナラガシワの分布

今回の調査地は、兵庫県北西部と鳥取県東部である。この地域におけるカシワとナラガシワの分布については、すでに1993年に報告した³⁾。それ以後新たに判明した知見を加筆した分布図が、図1である。

ナラガシワは、低標高地に分布するが、山陰地方では大きな群落を形成することはほとんどなく、二次林の中に局地的に認められる。谷沿いに多いが、山腹の斜面にみられることもある。

カシワの分布地は2通りに大別される。山地のススキ草原で疎林を形成するものと、海岸の岩角地に生えるものの2つである。前者は標高500m以上の山地に多く、後者は内陸部まで侵入せず、両者の分布は連続していない。

ナラガシワ、あるいは山地のカシワを食樹としているミドリシジミ類については過去によく調査されているが、海岸のカシワについてはこれまでに調査された例はないようである。今回ウラジロミドリシジミが発見されたカシワ林は、標高の低い地域のものが多く、カシワが低標高地に分布しているというこの地方での分布特性をふまえておく必要がある。

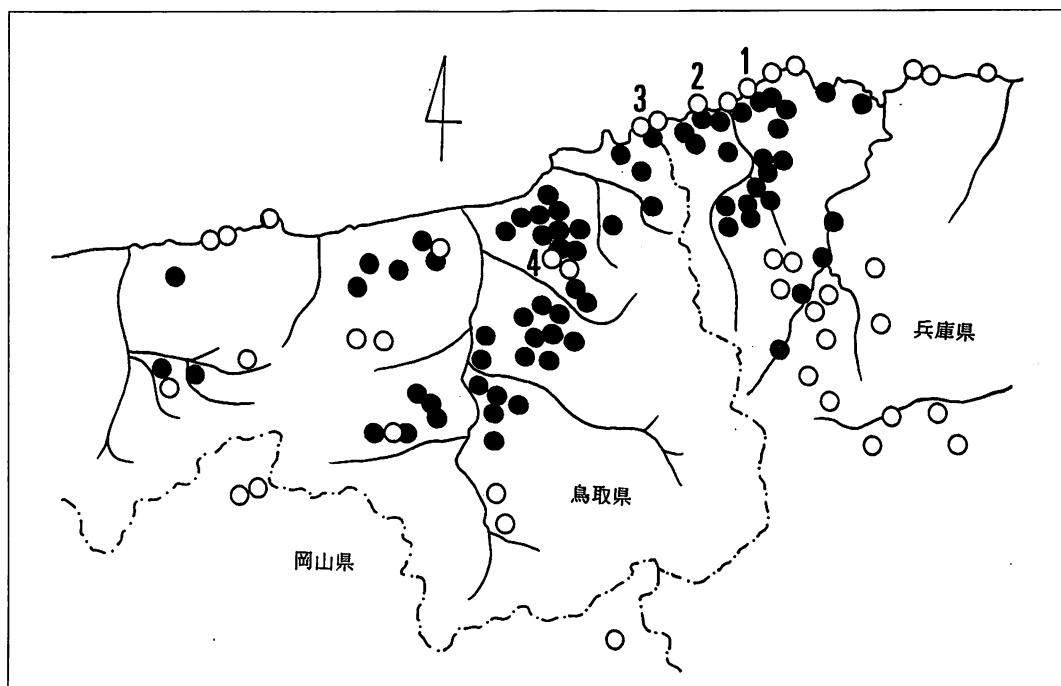


図1 兵庫県北西部および鳥取県東部におけるカシワ・ナラガシワの分布概念図
(○ カシワ, ● ナラガシワ). 図中の数字は、本文中に出てくるカシワ食のウラジロミドリシジミの産地を示す.

1. 浜坂町田井, 2. 浜坂町城山, 3. 浜坂町居組, 4. 国府町高岡

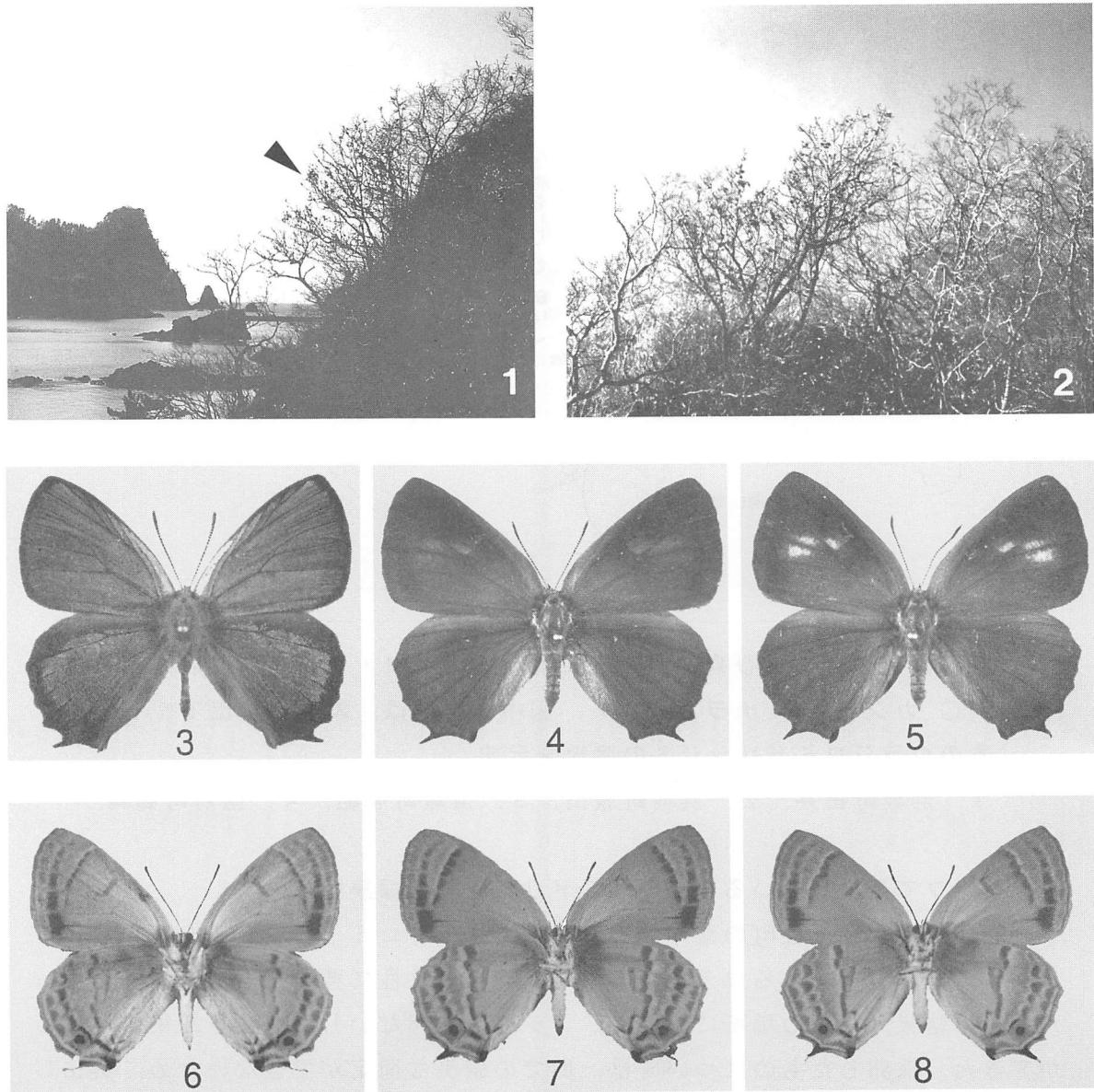
III. カシワで発生しているウラジロミドリシジミの採集記録

1991年6月に、浜坂町の海岸のカシワ林でウラジロミドリシジミを採集したことから、当地方におけるウラジロミドリシジミの食性に興味をもち、調査を行った。その結果、以下の場所において、カシワから卵ないしは成虫を採集することができた。採卵したものについては、卵での確実な同定ができないため、羽化した個体のデータを示した。また、飼育に際しては、カシワの開芽がふ化に間に合わなかったので、やむを得ずナラガシワを使用したことを付記しておく。

1. 美方郡浜坂町田井

1♂, 1-VII-1993, 永幡嘉之

海岸に面した斜面のカシワで、成虫を採集した。他にも数度目撲しているが、カシワの本数が少ないため、個体数は少ないのである。内陸側の斜面にはナラ



1. 海岸のカシワ自生地の景観. 矢印部にカシワがみられる（浜坂町城山）.
2. 海岸のカシワ. 他の樹木に混じって生育する（同地）.
- 3～8. カシワ食のウラジロミドリシジミ成虫（飼育品）.
3. ♂表面（浜坂町居組産） 4. ♀表面（浜坂町居組産） 5. ♀表面（A型, 国府町高岡産） 6. ♂裏面（浜坂町城山産） 7. ♀裏面（浜坂町城山産） 8. ♀裏面（浜坂町居組産）.

ガシワが少數見られ、両者の分布は部分的に重なる。成虫はこれまでカシワのみから確認している。

2. 美方郡浜坂町城山

- 1 ♂, 22-VI-1991, 永幡嘉之
 1 ♀, 19-VI-1992, 永幡嘉之
 1 ♂, 21-VI-1992, 永幡嘉之
 採卵 (31-I-1993, 10-II-1993, 13-II-1993) 永幡嘉之
 6 ♂♂ 3 ♀♀ 羽化, 18~23-V-1993

1991年には、成虫が夕刻蝶道をつくって次々と飛翔する様子を観察したが、以後は1日に数頭を目撃する程度である。

カシワは海に極めて近いところから尾根上まで広く分布しており、卵はいずれの場所でもみつかる。ここでも内陸側の斜面にはナラガシワがみられ、一部でカシワと混生しているが、ナラガシワからは卵は発見していない。

3. 美方郡浜坂町居組

- 1 ♂, 29-VI-1992, 川元 裕
 1 ♀, 17-VI-1993, 永幡嘉之
 1 ♂, 22-VI-1993, 永幡嘉之
 1 ♂, 16-VI-1994, 永幡嘉之
 採卵 (19-XII-1992, 11-II-1993) 永幡嘉之
 2 ♂♂ 5 ♀♀ 羽化, 20~24-V-1993

1992年6月に♂を目撃し、同年川元裕氏によって採集された⁴⁾。冬季の採卵では、尾根上から海岸付近までの広い範囲でカシワから卵を採集した。ナラガシワは、ここではコナラとの中間的な形態をしたもののがわずかに見られるのみで、数も少ない。また、カシワとコナラの中間的な形態をしたものもみられる。

4. 岩美郡国府町高岡

- 採卵 (24-I-1993) 永幡嘉之
 6 ♂♂ 3 ♀♀ 羽化, 16~23-V-1993

カシワは稻葉山の尾根上一帯に広くみられる。斜面にはナラガシワの、鳥取県内としては比較的本数の多い林があり、一部でカシワと分布を接している。卵は

カシワとナラガシワの両方に産卵されており、嗜好性についてはとくに差はないように思われた。ナラガシワ林にカシワとコナラの中間的な形態をしたものが少數混じっており、それからも卵を採集している。当初、川元裕氏がカシワ林を発見したことから2人で調査をしてきたが、すでに中井（1978）により、カシワに産卵している可能性が示唆されていた場所である⁵⁾。なお、筆者はハヤシミドリシジミは採集していないが、淀江（1994）には国府町宇倍野山が産地として挙げられており⁹⁾、カシワ林で2種が混生している可能性がある。

IV. 幼虫の色彩

本種の終齢幼虫の色彩は、西日本のナラガシワを食樹としているものでは赤色であるが、東日本でカシワを食樹としているものには赤色と黄色の2型があることが知られている。今回カシワから得た個体は、いずれも例外なく赤色であった。

V. ナラ類の分類

本稿には、ウラジロミドリシジミの幼虫が食する樹種としてカシワとナラガシワの2種が登場する。ところが、この2種は変異幅が大きく、ときに種の同定にあたって戸惑うものがある。幸いにしてカシワとナラガシワとの中間的な形態をした個体は見られないが、よく見られるものに、コナラとナラガシワ、コナラとカシワとの、それぞれ中間的な形態をした個体がある。特に山陰地方のナラガシワには、コナラとの中間的な形態をしたものが多い。今回は、それらをナラガシワあるいはカシワには含めなかった。雑種と考えられる個体にウラジロミドリシジミが産卵していた例は、国府町高岡でカシワとコナラの中間的な形態をしたものから2卵を採集、雌1頭が羽化という1例のみであるが、実際には雑種にもかなりの産卵が行われている可能性もある。

VI. 調査の現状と今後の課題

当初は、カシワを食樹としているものとナラガシワを食樹としているものは、それぞれ別の系統である可能性があると考えた。理由のひとつに、浜坂町での生息環境が隠岐や対馬と似ていることが挙げられた。しかし、幼虫の色彩がすべて赤色型であったこと、国府町高岡のように、ナラガシワ林と連続する産地が存在することなどが明らかになり、現在の知見ではナラガシワを食樹としているものとの区別は難しい。さらに最近になって中国地方各地でカシワ林からウラジロミ

ドリシジミが確認される例が相次いでいるので、カシワを食樹としている例は各地でみられる可能性がある。各地でカシワ林からウラジロミドリシジミが発見された例として、以下の場所がある。

兵庫県朝来町土肥²⁾、村岡町兎和野²⁾、村岡町大筈³⁾、岡山県上斎原村恩原⁶⁾、島根県大田市三瓶山東の原⁷⁾

今回確認した産地のうち、浜坂町の3カ所は、付近にナラガシワがごく少なく、カシワで世代を繰り返している個体群であると推定される。国府町高岡の産地では、カシワ林とナラガシワ林は近接している。上記に挙げた文献記録のなかにも、カシワとナラガシワとの分布が接している場所と、カシワ林が単独で存在している場所とがある。同一地域でカシワとナラガシワの出芽期を観察すると、通常はカシワが1週間から10日程度遅れる。近い場所に両種があり、どちらにも産卵されている場合、野外でのふ化の時期に差があるのかどうか興味が持たれる。筆者はこの点については全く調査することができなかった。また、野外で幼虫がカシワを摂食しているかどうかの観察もできなかった。

雌成虫が、産卵に際して意識的な選択を行っているかどうかの調査は難しい。現時点では、まだ未発見で眠っているカシワ林の生息地がいくつも存在すると思われる。今後各地のカシワ林で調査を進め、生息している場所の諸条件を明らかにしていくことにより、分布や食性の実態も明らかになってゆくことと思われる。

参考文献

- 1) 福田晴夫ほか (1984) 原色日本蝶類生態図鑑 (III), 保育社, 大阪.
- 2) 高田忠彦・井手敏晴 (1978) 兵庫県産蝶類調査報告 [I],
MDK NEWS28 (79) : 1-69.
- 3) 川元 裕・永幡嘉之 (1993) 因但地方におけるカシワ・ナラガシワの分布について, 因幡のむし28:11-15.
- 4) 川元 裕 (1993) 1992年度採集記録, 因幡のむし28:16-18.
- 5) 中井博喜 (1978) 鳥取市周辺での採集活動報告<1977>, すかしば 9:1-2.
- 6) 小椋 隆 (1989) ウラジロミドリシジミがカシワに発生?, ゆらぎあ 8:17.
- 7) 三島昭一 (1993) 未記録種2種を含む三瓶山のチョウ採集記録 (1993年),
すかしば39/40:52.

- 8) 木下賢司・前平照雄・福井丈嗣 (1986) 但馬地域の蝶類目録, IRATSUME10:55-95.
- 9) 淀江賢一郎 (1994) ハヤシミドリシジミ, 山陰のチョウたち (山陰むしの会編) :57, 山陰中央新報社, 松江.

体にアリの頭部をつけた甲虫の記録

永幡 嘉之

触角や脚に、アリの頭部の死骸をつけたまま活動していた甲虫を2例採集したので、写真を添えて報告する。

アリが衰弱した他の昆虫に襲いかかる光景は時折見かけるが、この2例の場合は、他の健全な昆虫に噛みついた個体が何らかの理由により死亡したものであろう。それほど重要な意味をもつとは思えないが、数少ない例であると思われる。

1. ハンノアオカミキリ *Eutetrapha chrysochlora* (写真1)

兵庫県美方郡美方町小代渓谷 1♀, 3-VIII-1992, 永幡嘉之

サワグルミ伐木に集まっていた個体で、アリは大きさからクロオオアリかムネアカオオアリであると思われる。触角にしっかりと噛みついたまま死んでおり、死骸は頭部のみで、やや古びていた。

2. ハンミョウ *Cicindela japonica* (写真2)

兵庫県美方郡村岡町相岡

1♂, 10-IX-1994, 永幡嘉之

この例では、アリはムネアカオオアリで、わずかに残っている前胸が赤褐色である。死骸は新鮮で、あるいはこの噛みついたハンミョウに食べられた可能性もある。

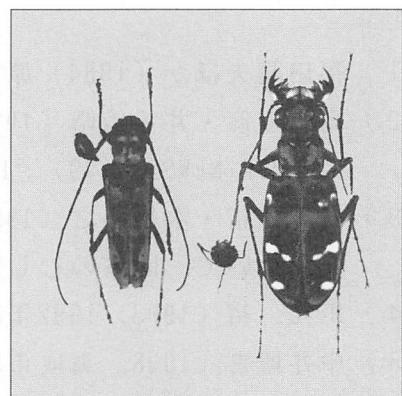


写真1

写真2

ウスバシロチョウの分布調査IV

永幡 嘉之

但馬でのウスバシロチョウ *Parnassius glacialis* の分布調査も、これで4年目となる。結果はその都度本誌に報告してきたが^{1) 2) 3)}、その間に鳥取県東部での調査報告も発表され⁵⁾、山陰地方における本種の分布も次第に明らかになってきている。

当初の目的が、「但馬ではどの程度、海岸近くまで分布するのだろう」という点にあったことから、1994年の調査はかねてからの懸案であった浜坂町海岸部と久斗川流域に重点を置いた。浜坂町における分布についてはすでに報告し⁴⁾、いくらか重複する部分もあるが、ここでは但馬地方における1994年の調査結果をまとめておきたい。調査はすべて1994年、採集者は筆者である。

1. 美方郡浜坂町

奥諸寄大柄川上流（2♂♂, 9-V），京屋二又川上流（10♂♂ 1♀, 14-V），田君（2♀♀, 16-V），久谷桃観峠（5♂♂ 1♀, 14-V），三尾間塩（2♂♂ 1♀, 14-V），藤尾鹿間谷（2♂♂, 20-V），大味（2♂♂ 1♀, 14-V），中小屋（9♂♂ 2♀♀, 14-V），中小屋ワシン谷（1♀, 14-V），大滝（8♂♂, 14-V），境（6♂♂ 3♀♀, 16-V），久斗山（7♂♂, 20-V），久斗山西ノ谷（4♂♂ 4♀♀, 20-V），久斗山宮谷（10♂♂ 3♀♀, 20-V），久斗山イモージ谷（7♂♂ 1♀, 20-V），本谷（8♂♂ 3♀♀, 20-V），本谷創造の森（1♂, 20-V）。

他に、和田（1頭 16-V）で目撃した。居組（18-V），七釜（16-V），赤崎（14-V），三尾・小三尾（14-V），城山（18-V），辺地（14-V），藤尾（16-V）では発見できなかった。

2. 美方郡温泉町

後山（9♂♂ 4♀♀, 16-V），鐘尾（2♂♂ 1♀, 23-V），千谷（10♂♂, 9-V），田中（3♂♂, 23-V），肥前畑（1♂, 23-V）。

他に、鐘尾（8-V），前（8-V），花口（19-V, 23-V）で目撃。中辻（23-V），千原（23-V）では発見できなかった。

3. 美方郡村岡町

和佐父（9♂♂ 3♀♀, 10-V），小城（5♂♂, 29-V）。

小城では、集落付近の他に山田渓谷側の伐採跡地でも見られた。他に、熊波（8-V），作山（3-VI）で目撃。

4. 養父郡関宮町

福定（1-VI）で目撃。

当初は、4年間で美方郡内における分布を調査し、現状を把握することが目的だった。浜坂町、温泉町については、大まかな分布の概要はつかめたかと思うが、村岡町、美方町では未調査の集落が多い。また、本年調査できなかった香住町西部には特に関心をもっている。本種の分布で意外に思われたことは、温泉町の照来台地のように多産地が点在する地域でも、分布は決して面的ではなく、場所によっては全く姿が見られない地域があるという現象である。概して谷密度の大きな地域には本種が多い。とかく垂直分布の下限ばかりが注目されがちな本種の分布調査だが、分布を制限する要因を考える上では、山間部での細かな分布を調べることもまた必要ではないだろうか。

なお、1994年は気候の関係からか本種の発生が早かった。蒲生峠の鳥取県側にあたる鳥取県岩美郡岩美町燕島では5月3日に数個体を目撃しているので、但馬の平野部での発生も同じ頃から始まっていたものと思われる。

参考文献

- 1) 永幡嘉之 (1993) ウスバシロチョウの分布調査 I, IRATSUME17:31-32.
- 2) 永幡嘉之 (1993) ウスバシロチョウの分布調査 II, IRATSUME17:33-34.
- 3) 永幡嘉之 (1994) ウスバシロチョウの分布調査 III, IRATSUME18:46-47.
- 4) 永幡嘉之 (1994) 浜坂町のウスバシロチョウ, 因幡のむし29:7-15.
- 5) 竹内 亮 (1994) 鳥取県東部のウスバシロチョウ, すかしば39/40:19-23.
- 6) 黒井和之 (1993) 美方郡西部のウスバシロチョウの新産地と知見,
IRATSUME17:28-30.

美方郡のウスバシロチョウ

黒井 和之

黒井（1993）は“美方郡西部のウスバシロチョウの新産地と知見”をまとめたが、その後の調査によって温泉・美方・村岡の各町で新産地を追加しているので報告しておきたい。

なお、報告にあたり、美方郡のウスバシロチョウを総まとめとして、これまでに発表されている既知産地と、今回の調査で追加できた新産地の記録をあわせて掲げておく。

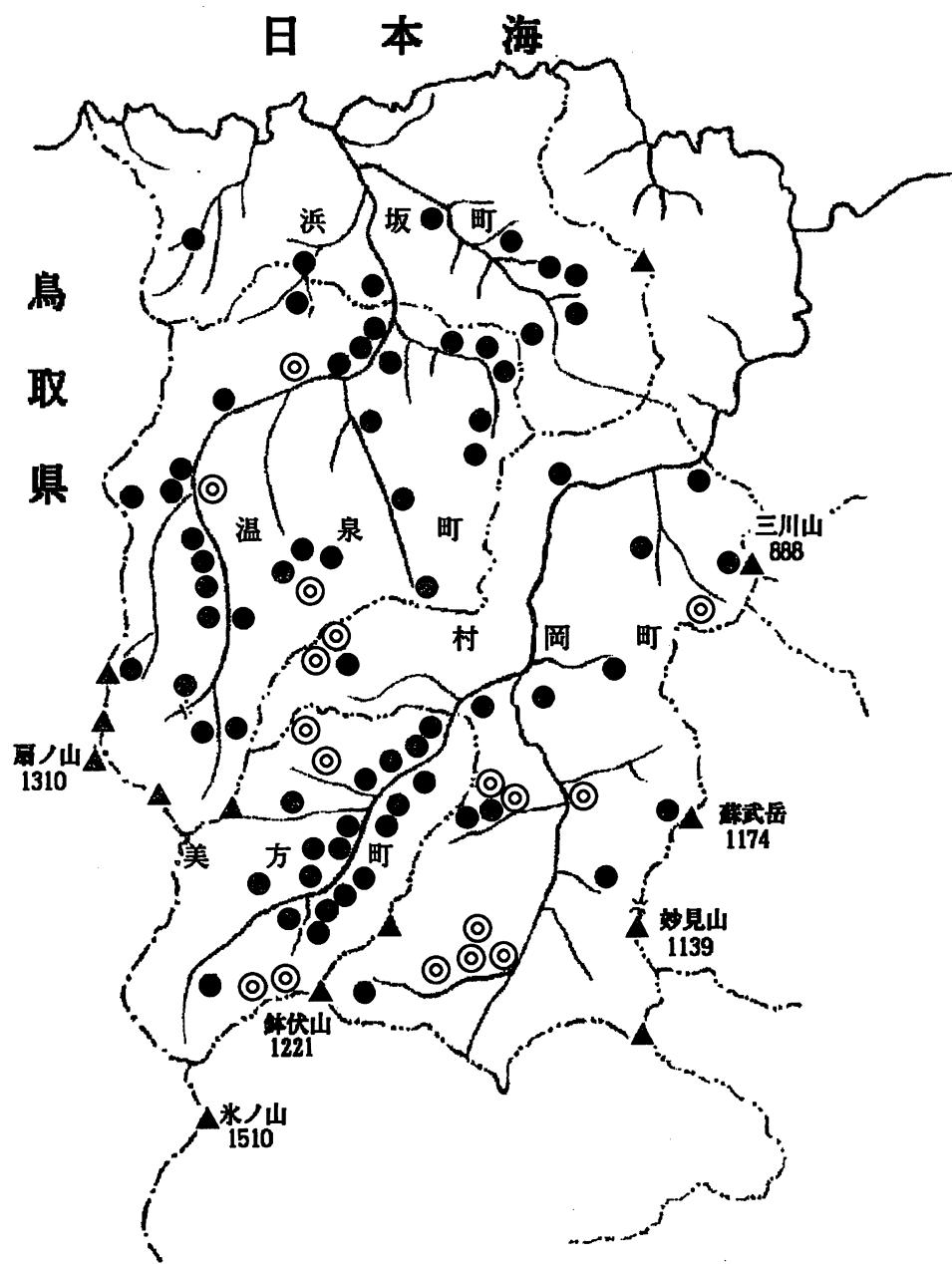
《既知産地》

浜坂町	田君谷・池ヶ平・正法庵・大滝・境・久斗山・本谷・用土・諸寄
温泉町	青下・菅原・畠ヶ平・上山・霧ヶ滝・海上・桧尾・伊角・春来・中辻・ 田中・肥前畠・千谷・熊谷・仁連寺・金屋口・井土・八日市・湯谷・ 丹土・越坂・内山・花口・前・湯・多子・後山・鐘尾・高山
村岡町	大笹・蘇武・三川山・熊波・作山・境・山田・味取・和佐父・用野・ 萩山・宮神・長板
美方町	熱田・神水・石寺・貫田・秋岡・新屋・忠宮・大谷・久須部・東垣・ 鍛冶屋・佐坊・茅野・平野・実山・野間谷・広井・城山・石寺

《新産地とデータ、すべて1993年の記録》

温泉町竹田（1♂, V-23），切畠（5♂, V-23），宮脇（3♂, V-23），美方町奥ハチスキ一場（5♂, V-23），オジロスキ一場（3♂, V-23），備（1♂, V-23），大照林道（2♂, V-23），神場（3♂, V-29），一二峰（1♂, V-29），村岡町高坂（5♂, V-16），森脇（5♂, V-16），福岡（2♂, V-16），池ヶ平（7♂, V-16），相岡（2♂, V-16），相岡大池（3♂, V-16），相田（2♂, V-29），神坂（1♂, V-29），村岡（1♂, V-29），小城（2♂, V-30）

1993年は、岸田川中流域と矢田川の中～上流域にまとを絞って調査を行った。



●は既产地

◎は生息が確認できた産地

美方郡西部のウスバシロチョウの分布図

その結果、温泉・美方・村岡の3町で合計19カ所新たな生息地を記録することができた。これまでの記録を合わせると美方郡内での本種の生息地は合計89カ所となり、河川流域沿いにほぼ連続して分布していることが確認できた。しかし、地図上にプロットしてみると、温泉町の飯野・塩山周辺で記録できず空白となっているし、村岡町の蘇武岳～三川山山麓では個体数が少なく分布密度が薄いことがよくわかる。

たった1年の調査では行動範囲も限られていて、本種のような出現期間の短い種は、そう簡単に結果を出すことは難しい。今後は、ゆっくりと付き合って調査を重ねて、完成度の高いものにしていきたいと思う。

参考文献

- 広畠政己・近藤伸一（1989）兵庫県産蝶類分布資料（5），ひろおび8：1-8.
 永幡嘉之（1993）ウスバシロチョウの分布調査，IRATSUME17:31-32.
 永幡嘉之（1993）ウスバシロチョウの分布調査，IRATSUME17:33-34.
 黒井和之（1993）美方郡西部のウスバシロチョウの新産地と知見，IRATSUME17:28-29.
 永幡嘉之（1994）ウスバシロチョウの分布調査，IRATSUME18:46-47.

『IRATSUMEの原稿募集』

IRATSUME20号の原稿を募集します。次号は『但馬むしの会』20周年記念号として、できるだけ多くの会員の方から原稿を募集いたします。古参会員の方には、この20年の但馬の虫に関するエピソードやトピックス、また但馬の自然の変遷などをご報告いただければ幸いです。フィールドノートや標本箱に眠ったままになっている記録、さらに今シーズンの最新成果などをどんどんお寄せください。各昆虫のデータのまとめや生態観察記はもちろん、採集記や短報も歓迎します。最近会員になられた方も、今後の抱負といったような内容でも結構ですから、ぜひご投稿ください。バラエティーに富んだ誌面にしたいと思います。

なお、原稿執筆に際しては、必ず投稿規定をお読みください。

原稿の締切は、1996年1月末です。

送付先・問合先は、〒567 茨木市新中条町5-36-102 谷角素彦まで。

浜坂町久斗山本谷で採集した甲虫類

黒井 和之

1994年の7月30・31日の両日、浜坂町久斗山本谷において、当会の採集会が行われた。残念ながら猛暑によるカラカラ天気の影響か、蝶やトンボはほとんど目撲できなかったが、それでもいくつかの甲虫類を採集・目撲しているので報告しておきたい。

なお、宿泊などの施設を無償で提供していただいた久斗山地区の区長さんと、データの提供をしてくれた永幡嘉之・足立義弘の両氏にお礼申し上げたい。

カミキリムシ科 Cerambycidae

クロカミキリ *Spondylis buprestoides*

1 ex., 30. VII. 1994, 黒井和之採集・標本保管

ウスバカミキリ *Megopis sinica*

1 ex., 30. VII. 1994, 黒井和之採集・標本保管

トラフカミキリ *Xylotrechus chinensis*

1 ex., 31. VII. 1994, 足立義弘採集・標本保管

ナガゴマフカミキリ *Mesosa longipennis*

3 exs., 31. VII. 1994, 永幡嘉之採集・標本保管

カタシロゴマフカミキリ *Mesosa hirsuta*

4 exs., 30. VII. 1994, 黒井和之採集・標本保管

5 exs., 31. VII. 1994, 永幡嘉之採集・標本保管

クワカミキリ *Apriona japonica*

1 ♂, 31. VII. 1994, 永幡嘉之採集・標本保管

ウスイロトラカミキリ *Xylotrechus cuneipennis*

1 ex., 31. VII. 1994, 永幡嘉之採集・標本保管

ヨツスジハナカミキリ *Leptura ochraceofasciata*

1 ex., 31. VII. 1994, 永幡嘉之採集・標本保管

イッシキキモンカミキリ *Glenea centroguttata*

6 ♂, 31. VII. 1994, 足立義弘採集・標本保管

コガネムシ科 Scarabaeidae

コブマルエンマコガネ *Onthophagus atripennis*

1 ex., 30. VII. 1994, 黒井和之採集・標本保管

オオスジコガネ *Mimela costata*

5 exs., 30. VII. 1994, 黒井和之採集・標本保管

スジコガネ *Mimela testaceipes*

1 ex., 30. VII. 1994, 黒井和之採集・標本保管

クロカナブン *Rhomboorrhina polita*

1 ex., 31. VII. 1994, 永幡嘉之目撃

連絡誌の情報を募集

連絡誌“混蟲ずかん”は年に数回発行されています。“混蟲ずかん”では、誌面の充実を図るため、会員の皆さんから情報を募集しています。メモ書き程度の通信でOKです。内容は、身近な虫の情報（モンシロチョウの初見日、セミの初鳴き日・終鳴日など）、採集情報、近況、意見、新刊紹介、新聞記事の切り抜きなど、何でも結構です。隨時、受け付けています。とくに、但馬地方の昆虫に関する情報を求めていきます。

送付先・連絡先は、

事務局（〒669-68美方郡温泉町井土932-10黒井和之）まで。

浜坂町城山で得た甲虫

黒井 和之

筆者は、浜坂町城山で蝶の採集のかたわら、いくつかの甲虫を採集しているので報告しておく。

オサムシ科 Carabidae

クロナガオサムシ *Leptocarabus procerulus*

1 ♀, 10-VI-1993; 1 ♂, 5-III-1988

ヤコンオサムシ *Carabus yaconinus*

1 ex., 30-V-1993

ルイスオオゴミムシ *Trigonotoma lewisii*

1 ex., 6-III-1988

クビボソゴミムシ *Galerita orientalis*

1 ex., 30-VI-1986

クワガタムシ科 Lucanidae

コクワガタ *Macrodorcas rectus*

1 ♂, 10-VI-1992

コガネムシ科 Scarabaeidae

コブマルエンマコガネ *Onthophagus atripennis*

9 ♂♂ 3 ♀♀, 26-VI-1994; 9 ♂♂ 7 ♀♀, 30-VII-1994

コフキコガネ *Melolontha japonica*

1 ♀, 26-VI-1994

カナブン *Rhomboorrhina japonica*

1 ♂, 21-VII-1986

ヒメトラハナムグリ *Trichius succinctus*

2 exs., 30-VI-1986

アオハナムグリ *Eucetonia roelofsi*

1 ex., 30-VI-1986; 2 exs., 6-III-1988

ムラサキツヤハナムグリ *Protaetia cataphracta*

1 ex., 6 - III - 1988

タマムシ科 Buprestidae

コクロナガタマムシ *Agrilus yamawakii*

1 ex., 8 - VIII - 1986

ウシカメムシの採集記録

永幡 嘉之

ウシカメムシ *Alcimocoris japonensis* は、カメムシのなかでは注目されることが多い種であるが、大野（1994）によると山陰地方における記録は少ないようである。筆者も2個体採集したので報告する。

1 ex., 兵庫県城崎郡香住町御崎, 14-V-1994, 永幡嘉之

1 ex., 鳥取県鳥取市湖山町南, 24-X-1994, 永幡嘉之

御崎では、スダジイの花をすくってカミキリムシを採集している際にネットの中に入っていたものである。湖山町南では、室内に入り込んでいた個体を採集した。

参考文献

大野正男（1994）ウシカメムシの分布総説，月刊むし284:12-17.

ナガフトヒゲナガゾウムシの記録 2 例

永幡 嘉之

筆者は本誌前号において、但馬におけるナガフトヒゲナガゾウムシ *Xylinada striatifrons* の採集記録を報告した¹⁾。その文中に、以下のような表現があった。「高校生だった1988年7月中旬に、西脇からほど遠くない三木市大村で、夕方コナラの新しい倒木に集まっていた十数頭を採集したことがあった」

「かつて関宮町出合の土場で、夜間に同行者が本種を採集した経験がある」

それらの標本は、当時蝶のみを標本にしていたこと、また、間に引っ越しがあったことなどから、きちんと管理できておらず、現存しないものと諦めていた。ところが、1995年になって、未整理の箱の中から雑甲虫の標本が出てきた。もしやと期待して探してみると、状態はよくないものの、ナガフトヒゲナガゾウムシが混じっていたのである。上記の2例とも、こうして日の目をみることになった。懐かしい標本を、ここに記録しておきたい。

1. 兵庫県三木市大村, 4♂♂ 2♀♀, 22-VII-1988, 永幡嘉之

コナラの新しい倒木に静止中の個体を、曇天の日中に採集した。前号に記した文章には若干の記憶違いがあり、7月中旬の夕方に同じコナラ倒木で多くの個体を発見したことがあったが、このときは採集はしなかった。すでに薄暗くなっていたが、交尾行動をとる個体や歩行中の個体が十数頭みられ、活動中であったことを記憶している。同地ではこの時以外に本種を見かけたことはない。

2. 兵庫県養父郡関宮町出合, 1♀, 5-VIII-1987, 松本正孝

関宮町出合のチップ工場の土場は、甲虫屋の間では有名であったが、残念ながら1993年からは材を積んでいないようである。ここで夜間に広葉樹の材上にいたものを同行者が採集した。

この時、筆者はまだ中学生であった。「変わったコクヌストを探ったからあげる」と言われて喜んでもらい受けたのだが、以後この虫をコクヌストだと思い込んでいた。ヒゲナガゾウムシの珍品だと知ったのは、それから5年も経つから

のことである。なお、当地は兵庫県で初めて本種が採集された場所でもある。

佐藤邦夫氏が本誌で述べられたように²⁾、本種は低山地に広く分布している種であろう。平地から低山地で、盛夏の夕方から夜間にコナラの新しい倒木に注意することにより、今後各地で記録が増えていくことと思われる。

参考文献

- 1) 永幡嘉之 (1994) 但馬における甲虫数種の採集記録, IRATSUME18:56-57.
- 2) 佐藤邦夫 (1993) ナガフトヒゲナガゾウムシについて, IRATSUME17:79-80.

キイロシリブトジョウカイを美方町で採集

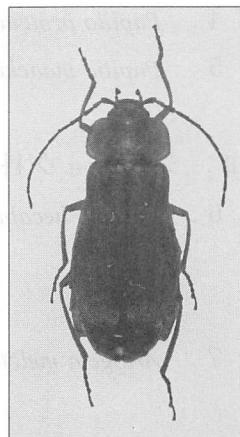
永幡 嘉之

キイロシリブトジョウカイ *Yukikoa wittmeri* は、一般に少ない種であるといわれている。但馬では、すでに佐藤 (1993) により、扇ノ山山系の温泉町霧ヶ滝での記録が報告されたが、このたび美方町で本種を採集したので報告する。

1 ex., 兵庫県美方郡美方町小代渓谷, 5-VI-1994, 永幡嘉之
草上に静止していた個体を採集した。

参考文献

- 佐藤邦夫 (1993) キイロシリブトジョウカイを温泉町で採集,
IRATSUME17:76.



奈佐森林公園における蝶・トンボの記録

宮垣 友洋

1. 奈佐森林公園での採集記録

中学1, 2年の夏休みに自由研究として、豊岡市の奈佐森林公園の蝶・トンボを調べたので、その記録を報告する。奈佐森林公園は、1994年の春から使用できるようになったキャンプ場で、山の上にもかかわらず水田などもあり、水生昆虫から甲虫まで多種多様な昆虫が生息している。

[チョウ]

I. アゲハチョウ科

1. <i>Parnassius glacialis</i>	ウスバシロチョウ	5 ♂ 1 ♀	1994-V-3
		1 ♀	1993-VII-25
2. <i>Luehdorfia japonica</i>	ギフチョウ	1 ♀	1994-V-3
3. <i>Papilio xuthus</i>	ナミアゲハ	1 ♂	1994-V-3
4. <i>Papilio protenor</i>	クロアゲハ	1 ♂	1993-VIII-9
5. <i>Papilio maackii</i>	ミヤマカラスアゲハ	1 ♂	1994-V-3

II. シロチョウ科

6. <i>Eurema hecabe</i>	キチョウ	2 ♀	1993-VIII-7
		1 ♂	1994-V-3
		1 ♀	1994-VI-25
7. <i>Artogeia melete</i>	スジグロシロチョウ	1 ♂	1993-V-8
		2 ♂	1994-V-3
8. <i>Anthocharis scolymus</i>	ツマキチョウ	1 ♂	1994-VII-29
		2 ♂ 1 ♀	1994-V-3
		1 ♂	1994-V-8
9. <i>Colias erate</i>	モンキチョウ	1 ♂ 1 ♀	1993-VII-29
		1 ♀	1993-VIII-1

1 ♀ 1994-VI-29
1 ♂ 1 ♀ 1993-VII-25

III. タテハチョウ科

10. <i>Argyronome ruslana</i>	オオウラギンスジヒョウモン	1 ♀	1993-VII-29
		1 ♂ 1 ♀	1994-VII-10
11. <i>Argynnis paphia</i>	ミドリヒョウモン	1 ♀	1993-VIII-5
12. <i>Nephargynnis anadyomene</i>	クモガタヒョウモン	1 ♀	1993-IX-23
13. <i>Damora sagana</i>	メスグロヒョウモン	2 ♀	1993-IX-23
14. <i>Limenitis glorifica</i>	アサマイチモンジ	1 ♀	1994-VI-25
		1 ♂	1993-VII-25
15. <i>Limenitis camilla</i>	イチモンジチョウ	1 ♀	1993-VII-29
16. <i>Neptis sappho</i>	コミスジ	2 ♀	1993-VIII-8
		1 ♂ 1 ♀	1994-VII-10
17. <i>Araschnia burejana</i>	サカハチチョウ	1 ♂ 1 ♀	1993-VIII-7
		2 ♂	1994-V-3
18. <i>Vanessa indica</i>	アカタテハ	1 ♀	1993-VIII-7
19. <i>Dichorragia nesimachus</i>	スミナガシ	1 ♂	1993-VII-29

VII. テングチョウ科

20. <i>Libythea celtis</i>	テングチョウ	1 ♂	1994-V-3
----------------------------	--------	-----	----------

V. ジャノメチョウ科

21. <i>Ypthima argus</i>	ヒメウラナミジャノメ	1 ♀	1994-VI-25
22. <i>Zophoessa callipteris</i>	ヒメキマダラヒカゲ	1 ♀	1994-VI-25

VI. シジミチョウ科

23. <i>Curetis acuta</i>	ウラギンシジミ	2 ♂	1993-VII-25
24. <i>Taraka hamada</i>	ゴイシシジミ	1 ♀	1994-VI-25
		1 ♂	1994-VII-10
25. <i>Lycaena phlaeas</i>	ベニシジミ	1 ♂	1994-V-3
26. <i>Celastrina argiolus</i>	ルリシジミ	1 ♂	1993-VII-25

1 ♂ 1994-V-3
1 ♀ 1994-V-8

VII. セセリチョウ科

- | | | |
|--|-----|-------------|
| 27. <i>Daimio tethys</i> ダイミョウセセリ | 1 ♀ | 1993-VII-29 |
| 28. <i>Isoteinon lamprospilus</i> ホソバセセリ | 1 ♂ | 1994-VII-10 |
| 29. <i>Erynnis montanus</i> ミヤマセセリ | 1 ♀ | 1994-V-3 |

[トンボ]

I. カワトンボ科

- | | | |
|--------------------------------|-----|----------|
| 1. <i>Mnais pruinosa</i> カワトンボ | 1 ♂ | 1994-V-3 |
|--------------------------------|-----|----------|

II. アオイトトンボ科

- | | | |
|--|-----|-------------|
| 2. <i>Indolestes peregrinus</i> ホソミオツネントンボ | 1 ♀ | 1993-VII-25 |
| | 2 ♂ | 1994-V-3 |

III. サナエトンボ科

- | | | |
|------------------------------------|-----|----------|
| 3. <i>Trigomphus melampus</i> コサナエ | 1 ♀ | 1994-V-3 |
|------------------------------------|-----|----------|

IV. ヤンマ科

- | | | |
|---|-----|-------------|
| 4. <i>Anax nigrofasciatus</i> クロスジギンヤンマ | 1 ♂ | 1994-VIII-7 |
|---|-----|-------------|

V. エゾトンボ科

- | | | |
|---------------------------------------|-----|-------------|
| 5. <i>Somatochlora uchidai</i> タカネトンボ | 1 ♂ | 1993-VII-29 |
|---------------------------------------|-----|-------------|

VI. トンボ科

- | | | |
|---------------------------------------|-----|-------------|
| 6. <i>Orthetrum japonicum</i> シオヤトンボ | 1 ♀ | 1994-V-3 |
| 7. <i>Sympetrum frequens</i> アキアカネ | 1 ♂ | 1993-VII-29 |
| 8. <i>Sympetrum darwinianum</i> ナツアカネ | 1 ♂ | 1993-IX-23 |
| 9. <i>Sympetrum infuscatum</i> ノシメトンボ | 1 ♀ | 1993-IX-23 |
| | 1 ♀ | 1994-VII-10 |
| 10. <i>Sympetrum kunckeli</i> マイコアカネ | 1 ♂ | 1993-VII-29 |

2. まとめと感想

今回採集した蝶・トンボは、蝶が29種63匹、トンボが10種13匹である。僕自身、あまりたくさんの虫をとるのは好きではないので、数も少ないし、「家に持っているからいいや」などと思って採らなかったこともある（昔のこと）。この記録以外にも、オナガアゲハ、カラスアゲハ、キアゲハ、ツマグロヒョウモン、ツバメシジミ、アオバセセリ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、ウスバキトンボなどがいたが、採集しなかった。おそらく他にもいたと思うが、小型の昆虫はあまり採らないし、小さい頃の「蛾みたいだな」という印象が強く残っていてジャノメチョウ科の蝶は、つい見逃してしまうことがある。ここで意外だったたのは、街中でもごく普通に見られるようなモンシロチョウが、全くいなかつたことである。これは、たぶん畑が近くになく食草のアブラナ科の植物が不足しているからだと思われる。

豊岡市で採集した蝶・トンボ

宮垣 友洋

1. 豊岡市で採集した蝶・トンボ

僕が昆虫採集を始めたのは小学校3年生の時、木下賢司先生に標本の作り方を教わってからである。まだ6年間しかやっていないので、採集した個体数が少なく記録が十分ではない。参考になるか分からぬが、自分の持っている全ての標本と一部弟の標本を整理してまとめたものである。

[チョウ]

I. アゲハチョウ科

1. *Luehdorfia japonica* ギフチョウ

1 ♀	豊岡市柄江	1994-V-5	宮垣 陽次
-----	-------	----------	-------

2. *Graphium sarpedon* アオスジアゲハ

1 ♂	豊岡市柄江	1992-V-10	宮垣 友洋
-----	-------	-----------	-------

1 ♀	豊岡市柄江	1993-V-14	宮垣 友洋
-----	-------	-----------	-------

3. *Atrophaneura alcinous* ジャコウアゲハ

1 ♀	豊岡市柄江	1990-IV-21	宮垣 友洋
-----	-------	------------	-------

1 ♂	豊岡市柄江	1993-VII-20	宮垣 友洋
-----	-------	-------------	-------

4. *Papilio xuthus* ナミアゲハ

1 ♀	豊岡市森尾	1989-VIII-13	宮垣 友洋
-----	-------	--------------	-------

1 ♀	豊岡市柄江	1991-VIII-20	宮垣 友洋
-----	-------	--------------	-------

1 ♂	豊岡市柄江	1993-V-3	宮垣 友洋
-----	-------	----------	-------

1 ♂	豊岡市柄江	1993-VII-20	宮垣 友洋
-----	-------	-------------	-------

1 ♀	豊岡市柄江	1993-IX-21	宮垣 友洋
-----	-------	------------	-------

1 ♀	豊岡市柄江	1994-VIII-9	宮垣 陽次
-----	-------	-------------	-------

5. *Papilio machaon* キアゲハ

1 ♂	豊岡市伊賀谷	1989-VII-27	宮垣 友洋
-----	--------	-------------	-------

1 ♀	豊岡市柄江	1989-VIII-22	宮垣 友洋
-----	-------	--------------	-------

1 ♀	豊岡市伊賀谷	1993-VIII-4	宮垣 友洋
1 ♀	豊岡市柄江	1993-IX-15	宮垣 陽次
1 ♂	豊岡市柄江	1994-IV-29	宮垣 陽次
1 ♀	豊岡市柄江	1994-V-2	宮垣 友洋
6.	<i>Papilio protenor</i> クロアゲハ		
1 ♂	豊岡市伊賀谷	1990-VIII-13	宮垣 友洋
1 ♂	豊岡市伊賀谷	1993-VIII-3	宮垣 友洋
1 ♀	豊岡市柄江	1993-IX-21	宮垣 友洋
1 ♂	豊岡市柄江	1994-V-5	宮垣 陽次
7.	<i>Papilio macilentus</i> オナガアゲハ		
1 ♂	豊岡市柄江	1994-V-14	宮垣 陽次
8.	<i>Papilio memnon</i> ナガサキアゲハ		
1 ♀	豊岡市柄江	1990-IX-21	宮垣 友洋
9.	<i>Papilio helenus</i> モンキアゲハ		
1 ♀	豊岡市柄江	1992-VIII-20	宮垣 友洋
1 ♀	豊岡市柄江	1993-IX-21	宮垣 友洋
10.	<i>Papilio maackii</i> ミヤマカラスアゲハ		
1 ♀	豊岡市柄江	1994-V-2	宮垣 友洋
11.	<i>Papilio bianor</i> カラスアゲハ		
1 ♂ 1 ♀	豊岡市伊賀谷	1992-VIII-3	宮垣 友洋

II. シロチョウ科

12.	<i>Eurema hecabe</i> キチョウ		
1 ♂	豊岡市伊賀谷	1992-VIII-26	宮垣 友洋
1 ♀	豊岡市柄江	1993-VIII-2	宮垣 友洋
1 ♂ 1 ♀	豊岡市伊賀谷	1993-VIII-3	宮垣 友洋
1 ♀	豊岡市柄江	1994-VI-7	宮垣 陽次
13.	<i>Eurema laeta</i> ツマグロキチョウ		
1 ♀	豊岡市柄江	1991-X-16	宮垣 友洋
14.	<i>Artogeia melete</i> スジグロシロチョウ		
1 ♀	豊岡市伊賀谷	1989-VII-26	宮垣 友洋
1 ♂	豊岡市柄江	1990-VIII-4	宮垣 友洋

1 ♀	豊岡市柄江	1993-VII-30	宮垣 友洋
1 ♀	豊岡市柄江	1993-IX-21	宮垣 友洋
1 ♀	豊岡市柄江	1994-V-14	宮垣 陽次
15. <i>Artogeia rapae</i> モンシロチョウ			
1 ♂	豊岡市伊賀谷	1989-VII-28	宮垣 友洋
1 ♀	豊岡市柄江	1990-IV-5	宮垣 友洋
2 ♂	豊岡市柄江	1992-VII-23	宮垣 友洋
1 ♀	豊岡市柄江	1992-VIII-22	宮垣 友洋
1 ♂	豊岡市柄江	1993-IX-21	宮垣 友洋
1 ♂	豊岡市柄江	1994-IV-29	宮垣 陽次
1 ♀	豊岡市柄江	1994-V-30	宮垣 陽次
16. <i>Colias erate</i> モンキチョウ			
1 ♂	豊岡市柄江	1990-V-7	宮垣 友洋
1 ♂	豊岡市柄江	1990-VIII-4	宮垣 友洋
1 ♀	豊岡市柄江	1993-VIII-2	宮垣 友洋
1 ♀	豊岡市柄江	1994-IV-29	宮垣 陽次
17. <i>Anthocharis scolymus</i> ツマキチョウ			
1 ♂	豊岡市柄江	1990-IV-28	宮垣 友洋
1 ♂	豊岡市柄江	1994-IV-29	宮垣 陽次
1 ♂	豊岡市柄江	1994-V-3	宮垣 陽次
18. <i>Gonepteryx aspasia</i> スジボソヤマキチョウ			
1 ♂	豊岡市伊賀谷	1989-X-15	宮垣 友洋
1 ♂	豊岡市柄江	1991-X-2	宮垣 友洋
1 ♂	豊岡市柄江	1991-X-9	宮垣 友洋

III. タテハチョウ科

19. <i>Argyronome ruslana</i> オオウラギンスジヒョウモン			
1 ♀	豊岡市伊賀谷	1989-X-15	宮垣 友洋
20. <i>Argynnис paphia</i> ミドリヒョウモン			
1 ♀	豊岡市柄江	1993-IX-21	宮垣 友洋
21. <i>Damora sagana</i> メスグロヒョウモン			
1 ♀	豊岡市柄江	1991-X-2	宮垣 友洋

1 ♀	豊岡市板江	1991-X-9	宮垣 友洋
22. <i>Fabriciana adippe</i>	ウラギンヒョウモン		
2 ♀	豊岡市板江	1991-X-2	宮垣 友洋
23. <i>Argyreus hyperbius</i>	ツマグロヒョウモン		
1 ♀	豊岡市板江	1989-VII-22	宮垣 友洋
1 ♀	豊岡市板江	1989-VIII-22	宮垣 友洋
2 ♂	豊岡市板江	1990-VII-22	宮垣 友洋
1 ♀	豊岡市板江	1990-VIII-4	宮垣 友洋
1 ♀	豊岡市板江	1994-V-14	宮垣 陽次
24. <i>Limenitis glorifica</i>	アサマイチモンジ		
1 ♀	豊岡市伊賀谷	1989-IX-4	宮垣 友洋
1 ♂	豊岡市板江	1993-IX-15	宮垣 陽次
25. <i>Limenitis camilla</i>	イチモンジチョウ		
1 ♂	豊岡市伊賀谷	1992-VIII-26	宮垣 友洋
1 ♀	豊岡市板江	1993-VIII-4	宮垣 友洋
26. <i>Araschnia burejana</i>	サカハチチョウ		
1 ♂	豊岡市板江	1994-IV-29	宮垣 陽次
1 ♀	豊岡市板江	1994-V-5	宮垣 陽次
27. <i>Neptis sappho</i>	コミスジ		
1 ♀	豊岡市伊賀谷	1990-VIII-26	宮垣 友洋
1 ♀	豊岡市伊賀谷	1990-IX-4	宮垣 友洋
1 ♀	豊岡市板江	1991-X-9	宮垣 友洋
1 ♂ 1 ♀	豊岡市板江	1993-IX-15	宮垣 陽次
28. <i>Polygonia c-aureum</i>	キタテハ		
1 ♀	豊岡市板江	1989-X-15	宮垣 友洋
1 ♀	豊岡市板江	1990-IX-4	宮垣 友洋
1 ♂ 1 ♀	豊岡市伊賀谷	1990-X-13	宮垣 友洋
1 ♂ 1 ♀	豊岡市板江	1993-IX-15	宮垣 陽次
1 ♂ 1 ♀	豊岡市板江	1994-IV-29	宮垣 陽次
29. <i>Neptis philyra</i>	ミスジチョウ		
1 ♀	豊岡市小島	1994-VI-11	宮垣 友洋
30. <i>Cynthia cardui</i>	ヒメアカタテハ		

1 ♂ 1 ♀	豊岡市柄江	1989-IX-16	宮垣 友洋
1 ♀	豊岡市高屋	1993-X-22	宮垣 友洋
1 ♀	豊岡市柄江	1994-V-29	宮垣 陽次
31. <i>Vanessa indica</i> アカタテハ			
1 ♂	豊岡市伊賀谷	1993-VII-3	宮垣 友洋
1 ♀	豊岡市柄江	1993-VII-20	宮垣 友洋
1 ♂ 1 ♀	豊岡市高屋	1993-X-22	宮垣 友洋
1 ♂	豊岡市柄江	1994-VI-26	宮垣 陽次
32. <i>Hestina persimilis</i> ゴマダラチョウ			
1 ♂	豊岡市柄江	1989-VII-22	宮垣 友洋
1 ♀	豊岡市柄江	1993-VII-7	宮垣 陽次
33. <i>Dichorragia nesimachus</i> スミナガシ			
1 ♀	豊岡市柄江	1993-VII-13	宮垣 友洋

IV. テングチョウ科

34. <i>Libythea celtis</i> テングチョウ			
1 ♂ 1 ♀	豊岡市柄江	1994-IV-29	宮垣 陽次
1 ♂ 1 ♀	豊岡市赤石	1994-VI-11	宮垣 友洋

V. ジャノメチョウ科

35. <i>Lethe diana</i> クロヒカゲ			
1 ♂	豊岡市柄江	1993-VII-20	宮垣 友洋
1 ♀	豊岡市柄江	1994-VI-11	宮垣 陽次
36. <i>Neope goschkevitschii</i> サトキマダラヒカゲ			
1 ♂ 1 ♀	豊岡市伊賀谷	1989-VIII-16	宮垣 友洋
1 ♀	豊岡市柄江	1991-IV-28	宮垣 友洋
1 ♂	豊岡市柄江	1994-V-14	宮垣 陽次
1 ♂	豊岡市柄江	1994-VIII-7	宮垣 陽次
37. <i>Minois dryas</i> ジャノメチョウ			
1 ♂	豊岡市柄江	1990-VIII-22	宮垣 友洋

VI. シジミチョウ科

38.	<i>Curetis acuta</i>	ウラギンシジミ		
1 ♀	豊岡市板江	1991-X-9	宮垣	友洋
2 ♂	豊岡市伊賀谷	1992-VIII-26	宮垣	友洋
1 ♂ 1 ♀	豊岡市板江	1992-VIII-27	宮垣	友洋
1 ♂	豊岡市板江	1993-IX-21	宮垣	友洋
39.	<i>Narathura japonica</i>	ムラサキシジミ		
1 ♂	豊岡市板江	1994-VI-26	宮垣	友洋
40.	<i>Antigius attilia</i>	ミズイロオナガシジミ		
1 ♀	豊岡市小島	1994-VI-11	宮垣	友洋
41.	<i>Lampides boeticus</i>	ウラナミシジミ		
1 ♂ 2 ♀	豊岡市伊賀谷	1990-IX-4	宮垣	友洋
2 ♀	豊岡市板江	1993-IX-22	宮垣	友洋
42.	<i>Lycaena phlaeas</i>	ベニシジミ		
1 ♂	豊岡市伊賀谷	1990-IX-4	宮垣	友洋
1 ♂	豊岡市板江	1994-IV-21	宮垣	陽次
43.	<i>Everes argiades</i>	ツバメシジミ		
2 ♂	豊岡市板江	1990-VIII-22	宮垣	友洋
1 ♂	豊岡市板江	1993-VII-30	宮垣	友洋
1 ♀	豊岡市板江	1993-VIII-3	宮垣	友洋
1 ♂	豊岡市小島	1994-VI-11	宮垣	友洋
1 ♂	豊岡市福田	1994-VI-20	宮垣	友洋
44.	<i>Pseudozizeeria maha</i>	ヤマトシジミ		
1 ♀	豊岡市板江	1993-VII-30	宮垣	友洋
1 ♂	豊岡市板江	1994-V-2	宮垣	友洋
45.	<i>Celastrina argiolus</i>	ルリシジミ		
2 ♂	豊岡市板江	1990-VII-22	宮垣	友洋
1 ♂	豊岡市板江	1992-VIII-24	宮垣	友洋

VII. セセリチョウ科

46.	<i>Choaspes benjaminii</i>	アオバセセリ		
1 ♀	豊岡市板江	1994-V-14	宮垣	陽次
47.	<i>Parnara guttata</i>	イチモンジセセリ		

1 ♀	豊岡市柄江	1990-VII-22	宮垣 友洋
48.	<i>Polytremis pellucida</i> オオチャバネセセリ		
1 ♀	豊岡市柄江	1990-VIII-22	宮垣 友洋
49.	<i>Daimio tethys</i> ダイミョウセセリ		
1 ♂	豊岡市柄江	1994-VII-22	宮垣 陽次

〔トンボ〕

I. カワトンボ科

1.	<i>Calopteryx virgo</i> アオハダトンボ		
1 ♂ 1 ♀	豊岡市柄江 (奈佐川)	1994-VI-24	宮垣 友洋
2.	<i>Mnais naway</i> ナワカワトンボ		
1 ♀	豊岡市柄江	1990-IV-11	宮垣 友洋
1 ♂	豊岡市柄江	1994-V-2	宮垣 友洋
1 ♂	豊岡市柄江	1994-V-3	宮垣 友洋
3.	<i>Calopteryx atrata</i> ハグロトンボ		
1 ♂ 1 ♀	豊岡市柄江	1989-IX-17	宮垣 友洋
1 ♂	豊岡市柄江	1994-IX-23	宮垣 友洋

II. イトトンボ科

4.	<i>Ceriagrion melanurum</i> キイトトンボ		
2 ♂	豊岡市伊賀谷	1994-IX-12	宮垣 友洋
5.	<i>Cercion calamorum</i> クロイトトンボ		
1 ♂ 1 ♀	豊岡市氣比	1994-VI-19	宮垣 友洋
6.	<i>Mortonagrion selenion</i> モートンイトトンボ		
1 ♂	豊岡市氣比	1994-VI-19	宮垣 友洋
1 ♀	豊岡市柄江	1994-VII-22	宮垣 友洋

III. アオイトトンボ科

7.	<i>Lestes temporalis</i> オオアオイトトンボ		
1 ♂	豊岡市柄江	1989-IX-17	宮垣 友洋
8.	<i>Indolestes peregrinus</i> ホソミオツネントンボ		
1 ♂	豊岡市氣比	1994-VI-19	宮垣 友洋

1 ♂	豊岡市柄江	1994-VI-26	宮垣 友洋
1 ♂	豊岡市柄江	1994-IX-20	宮垣 友洋

IV. サナエトンボ科

9.	<i>Gomphus melaenops</i> ヤマサナエ		
1 ♂	豊岡市柄江	1994-V-4	宮垣 友洋

V. ムカシヤンマ科

10.	<i>Tanypteryx pryeri</i> ムカシヤンマ		
1 ♂	豊岡市柄江	1990-V-15	宮垣 友洋

VI. オニヤンマ科

11.	<i>Anotogaster sieboldii</i> オニヤンマ		
1 ♂	豊岡市柄江	1989-VIII-8	宮垣 友洋
1 ♂	豊岡市柄江	1993-VIII-4	宮垣 友洋
1 ♂	豊岡市柄江	1994-VII-3	宮垣 友洋

VII. ヤンマ科

12.	<i>Aeschnophlebia longistigma</i> アオヤンマ		
1 ♂	豊岡市福田	1994-VI-19	宮垣 友洋
1 ♂	豊岡市小島	1994-VI-24	宮垣 友洋
13.	<i>Gynacantha japonica</i> カトリヤンマ		
1 ♂	豊岡市柄江	1993-VIII-26	宮垣 友洋
14.	<i>Boyeria macclachlani</i> コシボソヤンマ		
1 ♂	豊岡市柄江	1994-VI-12	宮垣 陽次
15.	<i>Oligoaeschna pryeri</i> サラサヤンマ		
1 ♂	豊岡市柄江	1994-VII-22	宮垣 友洋
16.	<i>Planaeschna milnei</i> ミルンヤンマ		
1 ♂	豊岡市柄江	1994-VI-26	宮垣 友洋
17.	<i>Polycanthagyna melanictera</i> ヤブヤンマ		
1 ♀	豊岡市柄江	1994-VI-26	宮垣 友洋

VIII. エゾトンボ科

18. *Somatochlora uchidai* タカネトンボ
2 ♂ 豊岡市板江 1993-IX-12

宮垣 友洋

IX. ヤマトンボ科

19. *Macromia amphigena* コヤマトンボ
1 ♀ 豊岡市板江 1990-V-31

宮垣 友洋

X. トンボ科

20. *Sympetrum frequens* アキアカネ
1 ♂ 豊岡市板江 1993-VIII-19 宮垣 友洋
21. *Pantala flavescens* ウスバキトンボ
1 ♂ 豊岡市板江 1993-VIII-22 宮垣 友洋
1 ♀ 豊岡市板江 1994-VIII-19 宮垣 友洋
22. *Orthetrum triangulare* オオシオカラトンボ
1 ♂ 豊岡市板江 1992-VIII-9 宮垣 友洋
23. *Orthetrum albistylum* シオカラトンボ
1 ♀ 豊岡市板江 1993-VIII-12 宮垣 友洋
24. *Crocothemis servilia* ショウジョウトンボ
1 ♂ 豊岡市福田 1994-VI-19 宮垣 友洋
1 ♀ 豊岡市板江 1994-VI-26 宮垣 友洋
25. *Sympetrum striolatum* タイリクアカネ
1 ♀ 豊岡市板江 1993-VIII-13 宮垣 友洋
26. *Sympetrum darwiniyanum* ナツアカネ
1 ♀ 豊岡市板江 1994-VII-22 宮垣 友洋
27. *Sympetrum infuscatum* ノシメトンボ
1 ♂ 豊岡市板江 1994-VI-20 宮垣 友洋
1 ♀ 豊岡市森尾 1994-VIII-1 宮垣 友洋
1 ♂ 豊岡市伊賀谷 1994-IX-4 宮垣 友洋
28. *Nannophya pygmaea* ハッヂョウトンボ
1 ♂ 豊岡市福成寺 1994-VI-25 宮垣 友洋
1 ♂ 豊岡市板江 1994-VI-17 宮垣 陽次

29.	<i>Lyriothemis pachygaster</i>	ハラビロトンボ		
2 ♂ 1 ♀	豊岡市柄江	1994-V-14	宮垣	友洋
1 ♀	豊岡市気比	1994-VI-19	宮垣	友洋
1 ♀	豊岡市福成寺	1994-VI-25	宮垣	友洋
30.	<i>Sympetrum kunckeli</i>	マイコアカネ		
1 ♂	豊岡市柄江	1994-VIII-10	宮垣	友洋
31.	<i>Libellula quadrimaculata</i>	ヨツボシトンボ		
1 ♂	豊岡市小島	1994-VI-11	宮垣	友洋
32.	<i>Sympetrum risi</i>	リスアカネ		
1 ♂	豊岡市伊賀谷	1994-IX-4	宮垣	友洋

2.まとめと感想

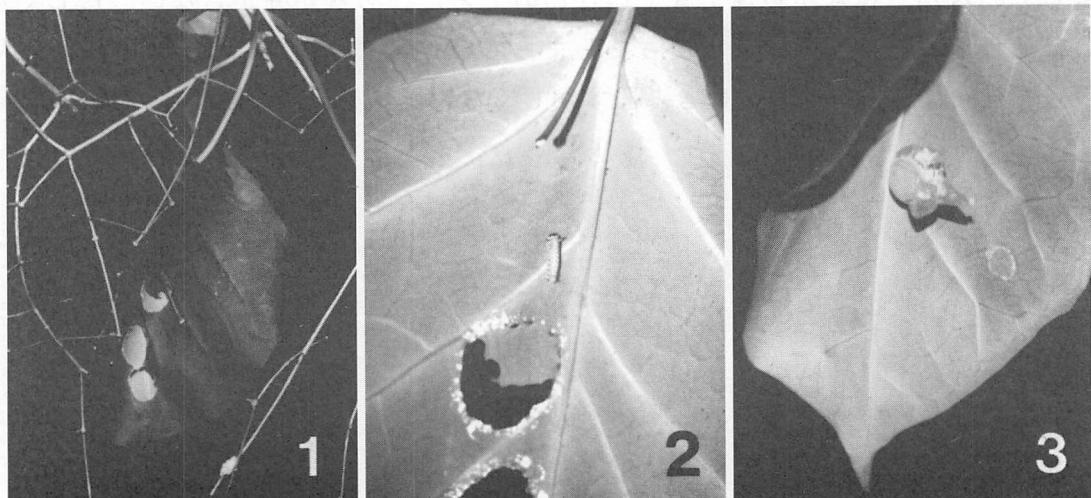
ここで著した蝶・トンボは、今までに採った全てのものにもかかわらず考えていたよりも種類も數も少なく、蝶49種143匹、トンボ32種55匹だった。この中でも、ナガサキアゲハは、1991年には1♀捕まえたので卵を産ませようとしたが失敗し、子供心に可愛そうだなと思い庭に埋めてしまった。その年には他にも2♀を見たが、1992年からは全く見ていない。その時採っておけばよかったのに、何故採らなかったのか後悔している。ここには載っていないが、豊岡市柄江では、コツバメ、ヒメキマダラヒカゲ、コオニヤンマ、オジロサンエイ等を採ったのを記憶しているが、標本が整理できていないのでどこにあるか分からぬ。珍しくない普通種ばかりで10ページも使ってしまって申し訳ない。今後は、蝶とトンボに限らず様々な昆虫を探っていき、恥ずかしくない記録を掲載できるようにしたい。

アサギマダラの越冬幼虫の確認例

永幡 嘉之

アサギマダラ *Parantica sita* は、成虫が長距離の移動をすることでよく知られており、兵庫県でも夏に観察される成虫の多くは南方から飛来した個体ではないかといわれている。しかし、播磨地方で越冬する個体があることは古くから知られており^{1) 2)}、最近では岡山県や島根県でも幼虫または蛹での越冬が確認されている^{3) 4) 5)}。

1995年3月、鳥取市の小林一彦・井上喜美子両氏の御案内により、佐用郡上月町櫛田の飛龍ノ滝を訪れる機会があった。クリハラン、チトセカズラ、ミヤコアオイなどと共にキジョランの小規模な群落がみられ、その葉にはアサギマダラの円形の食痕が目立ったので探索したところ、葉裏から4幼虫と1蛹殻を見出すことができた。幼虫はすべて若齢で、1頭が他の3頭にくらべてやや大きかったものの、いずれも10mmに満たなかった。蛹殻は、時期から考えて前年の秋のものであると思われた。キジョランの葉はすべて寒さのためか筒状に丸まっており、幼虫はその中に潜むような格好になっていた。



1. キジョランの葉にみられる円形の食痕； 2. 葉の裏面に静止する幼虫；
3. 葉裏から見出された蛹殻

この近辺での越冬の記録としては、南光町船越がある²⁾。飛龍ノ滝にキジョランが生育することは古くから有名だったようだが⁶⁾、手持ちの文献では当地でのアサギマダラの越冬の記録は見出せなかった。

御案内いただいた両氏に厚く御礼申し上げる。また、写真はすべて小林一彦氏の撮影によるものであり、文献の入手にあたっては小林氏と松井正人氏にお世話になった。

観察記録

兵庫県佐用郡上月町櫛田、4幼虫1蛹殻、8-III-1995

参考文献

- 1) 三木順一 (1979) キジョランとアサギマダラ, てんとうむし5:17.
- 2) 広畠政己 (1984) 南光町船越でアサギマダラの越冬幼虫を確認, ひろおび7:47.
- 3) 衣笠弘直 (1994) アサギマダラの幼虫, 今年も山陰で越冬?,
アサギマダラ情報164:897-900.
- 4) 衣笠弘直 (1994) 雪の中で寒さに耐えるアサギマダラの幼虫,
アサギマダラ情報165:912-913.
- 5) 河辺誠一郎 (1991) 岡山県中部(加茂川町)におけるアサギマダラ産卵と越冬の記録, すずむし126:1-6.
- 6) 岩谷成彦 (1981) 飛龍ノ滝 播磨の植物(兵庫県生物学会編):26-29,
神戸新聞出版センター, 神戸.

但馬の蝶分布資料

シジミチョウ科ミドリシジミ族（その2）

黒井 和之

前回（IRATSUME17, 1993）は第1回目として、ウラゴマダラシジミをはじめとする6種を報告したが、今回は引き続いて7種をまとめてみたい。

なお、データの末尾の番号は引用文献ナンバーとして示した。また、ナンバーのないものは新たな記録の追加である。

7. ミズイロオナガシジミ *Antigius attilia*

但馬地域に生息している本族のなかでは、もっとも普通種であろう。生息地は海に面した平地から山地帯にかけて幅広く、おおまかな生息環境は、伐採されてから数年経過した二次林で、下草などが適度に生い茂るような比較的明るい環境に多く生息している。しかし、普通種で色彩が地味なこともあり、採集されず見過ごされることが多く、文献などでの報告例も少ない。

《データ》

氷ノ山(杉ヶ沢)・蘇武岳・来日岳・段ヶ峰・豊岡(妙楽寺, 立石, 奥野, 森尾)・日高(阿瀬渓谷) 7)		
1977-VII-3	日高町金山峠付近	谷角2)
1977-XII-16 5卵探 1♂羽化	出石町茗荷谷	高田・井手3)
1978-VI-24 3♂ 1♀	日高町金山・蘇武山系	足立・谷角5)
1963-VI-14 5exs.	豊岡市妙楽寺	木下13)
1978-VII-4 1♂	福成寺	木下13)
1979-VI-17 3♂	福成寺	木下13)
-VI-18 1ex.	福成寺	福井13)
1978-VI-15 1ex.	三閑山	福井13)
1983-VI-9 5♂ 1♀	奥野	前平13)
1982-VI-17 3♂	江野	前平13)
1980-VI-22 3exs.	城崎町来日岳	福井13)
1981-VI-24 2exs.	来日岳	福井13)

1982-VI-17	3 exs.	来日岳	福井13)
1978-VI-26	2 ♂	日高町名色林道(蘇武岳)	木下13)
-VII-1	1 ♂	名色林道	木下13)
-VII-1	3 exs.	名色林道	福井13)
-VI-17	2 exs.	岩中	木下13)
1982-VI-15	2 exs.	栎本	福井13)
1984-VI-18	2 exs.	栎本	前平13)
1979-VI-20	1 ♂	鶴岡	木下13)
1980-VI-12	1 ♂	鶴岡	木下13)
1983-VI-15	2 ♂ 1 ♀	山宮(大岡山)	前平13)
1980-VII-12	1 ex.	村岡町耀山	福井13)
-VII-13	1 ♂	耀山	木下13)
1965-VII-15	3 exs.	大屋町杉ヶ沢	木下13)
1981-VII-4	4 exs.	温泉町美原高原	黒井13)
1982-VI-27	1 ex.	美原高原	黒井13)
-VII-12	1 ex.	美原高原	黒井13)
1983-VI-12	2 exs.	檜尾	黒井13)
1984-VII-8	1 ex.	上山高原	黒井13)
1977-III-19	6 卵採集, 1 ♀ 羽化	浜坂町辺地	高田14)
-V-5	1 卵採集(孵化せず死亡)	日高町金屋	高田・井手14)
-IV-16	2 卵採集(孵化せず死亡)	豊岡市法花寺	高田14)
-IV-14	4 卵採集, 1 ♂ 羽化	八鹿町小佐	高田・井手14)
-IV-16	5 卵採集, 1 ♂ 羽化	出石町奥山	高田14)
-IV-12	3 卵採集, 1 ♀ 羽化	和田山町野村	高田14)
1983-XII-4	採卵	村岡町小城	広畠16)
1991-VI-29	1 ♀	温泉町上山高原	黒井
1991 ?	採集	浜坂町城山	
1992-VII-18	採集	村岡町耀山	黒井
1993-VII-9	1 ex.	金山峠	黒井

8. ウスイロオナガシジミ *Antigius butleri*

本種は前種に比べると、採集される個体数が非常に少なく、これまでに文献な

どで報告された産地も7産地しかない。生態図鑑などによると、ミズイロオナガシジミの日周活動が朝と夕刻の二山型の活動習性をもつものに対して、本種は夕刻に活動の最盛があることが報告されている。こういった習性が調査するうえでの障害となり、採集されにくい種になっているように思う。また、これまでに記録された産地は、城崎町・日高町と関宮町を南北に結ぶ線の西側しかない。案外前種と混同して採集されていないのではないかという疑問がある。

《データ》

氷ノ山(杉ヶ沢)・扇ノ山・来日岳 7)

1983-VI-25		関宮町杉ヶ沢 8)
1978-VII-11	2 exs.	城崎町来日岳 福井13)
1981-VI-24	1 ex.	来日岳 福井13)
1982-VI-17	1 ex.	来日岳 福井13)
1983-VI-14	2 exs.	来日岳 福井13)
1978-VI-27	1 ex.	日高町名色林道(蘇武岳) 木下13)
-VII-1	3 exs.	名色林道 木下13)
-VII-1	2 exs.	名色林道 福井13)
1984-VI-17	1 ex.	名色林道 木下13)
1983-VII-3	1 ♂	村岡町大笹 前平13)
1984-VI-30	1 ex.	大笹 福井13)
-VIII-19	1 ex.	温泉町上山高原 黒井13)
1977-X-22	4 卵採集, 1 ♂羽化	温泉町肥前畠 糀谷14)
1978-IV-14	3 歳 1 頭採集	城崎町来日岳 小林14)
1985-V-19	終齢 3 頭採集, 3 exs. 羽化	温泉町花口 黒井15)
1992 ?	採集	浜坂町城山※
1993-VI-25	2 exs. 目撃	浜坂町久斗山 永幡22)

9. ウラクロシジミ *Iratsume orsedice*

低地から標高1000mをこえる山地にかけて、幅広い生息域がある。たとえば、低地では豊岡市下鶴井、高標高地は温泉町扇ノ山の小ヅッコ周辺などで採集記録があり、これまでに41産地が文献で報告されている。個体数も少なくはなく、天候の状態が悪いときなどに樹間の山道を歩いていると、葉上からヒラヒラと地上の下草へ飛翔する個体をよく観察できる。

本地域には北部を中心として、幼虫の食餌植物であるマンサクが多いことから分布密度も高いように思われる。

《データ》

氷ノ山(杉ヶ沢)・扇ノ山・床尾山・来日岳・豊岡(妙楽寺, 金山, 奥野, 下鶴井)・大屋 7)

1975-V-15	前蛹 1頭採集	豊岡市下鶴井	足立 3)
-VI-15	1♂ 1♀		足立 3)
1977-VI-28	1♂	出石町東床ノ尾山山頂	木下 4)
-VII-1	2♂	和田山町糸井谷	高田・井手 4)
1978-VI-18	1♀	糸井谷	広畑 4)
-VI-26	1♀	出石町桐野谷	木下 4)
1983-VI-25		関宮町杉ヶ沢 8)	
1964-VI-14	1♂ 1♀	豊岡市愛宕山	木下 13)
1966-VI-12	1♂	愛宕山	木下 13)
1970-VI-15	1♀	愛宕山	木下 13)
1978-VI-8	1♂	愛宕山	福井 13)
1974-VI-17	1♀	豊岡市高屋(金山)	木下 13)
1979-VI-14	1♂	福成寺	木下 13)
1980-VI-9	1♂	福成寺	木下 13)
1979-VI-17	1♀	宮井	木下 13)
1982-VI-17	3♂	江野	前平 13)
1983-VI-9	2♂ 1♀	奥野	前平 13)
1978-VI-18	3♂ 1♀	城崎町来日岳山頂	木下 13)
1979-VI-24	1♂	来日岳	福井 13)
1980-VI-22	2♀	来日岳	福井 13)
1982-VI-17	2♂	来日岳	福井 13)
1983-VI-3	1♀	来日	福井 13)
-VI-20	2♂ 1♀	来日	福井 13)
1985-VI-11	1♂	来日	福井 13)
1982-VI-17	1♀	大師山	福井 13)
1985-VI-11	5♂	大師山	福井 13)
1964-VI-8	1♀	竹野町阿金谷	小崎 13)
1978-VII-1	1♀	日高町名色林道(蘇武岳)	木下 13)

1979-VI-24	1 ♂	名色林道(蘇武岳)	木下13)
1982-VI-30	1 ♀	栃本	木下13)
1984-VI-18	1 ♂	栃本	福井13)
-VI-13	1 ♂ 1 ♀	小河江	福井13)
1985-VI-7	3 ♂	小河江	福井13)
-VI-9	1 ♀	小河江	福井13)
1982-VI-9	2 ♂	金谷	前平13)
1985-VI-20	1 ♂	稻葉(三川山)	福井13)
1977-VI-28	1 ♂	出石町桐野	木下13)
1978-VI-26	1 ♀	桐野	木下13)
1979-VI-20	1 ♀	桐野	小崎13)
1984-VI-24	1 ♀	奥山	木下13)
1981-VI-9	3 ♂	袴狭(白糸の滝)	木下13)
1972-VII-4	7 ♀	関宮町氷ノ山夏道	木下13)
1982-VII-3	1 ♂	温泉町上山高原	黒井13)
1983-VI-26	1 ♀	上山高原	黒井13)
1984-VII-8	1 ♂	上山高原	黒井13)
1982-VII-4	1 ♂	菅原	黒井13)
1983-VI-12	1 ♀	檜尾	黒井13)
1978-VI-23	1 ♂	村岡町瀧川山	福井13)
1977-III-19	1 卵採集(孵化せず死亡)	浜坂町田君	高田14)
-X-30	1 卵採集, 1 ♀ 羽化	温泉町海上	高田・井手14)
-X-30	1 卵採集(孵化せず死亡)	肥前畠	高田・井手14)
-V-10	7 卵採集, 2 ♂ 2 ♀ 羽化	美方町熱田	高田・井手14)
1978-VII-2	1 ♀	村岡町村岡	高田14)
1977-X-12	2 卵採集, 1 ♀ 羽化	城崎町来日岳	高田14)
-XI-26	3 卵採集(孵化せず死亡)	香住町三川	高田14)
1976-IV-5	3 齢 6 頭採集, 2 ♀ 羽化	日高町金屋	若林・高田・井手14)
1974-VI-9	2 ♂ 3 ♀	豊岡市小島	小林14)
1977-X-16	3 卵採集, 1 ♂ 1 ♀ 羽化	出石町出石神社	高田14)
1976-X-2	5 卵採集 2 ♂ 1 ♀ 羽化	関宮町杉ヶ沢	高田・井手14)
1977-X-17	4 卵採集, 1 ♀ 羽化	相地	高田14)

- X - 10	3 卵採集, 1 ♂ 羽化	氷ノ山	高田 14)
1976-X-21	10 卵採集, 2 ♂ 3 ♀ 羽化	大屋町加保	糸谷 14)
1978-III-5	6 卵採集, 1 ♂ 1 ♀ 羽化	養父町野谷	高田・福原・糸谷 14)
1975-VII-1	2 ♂	和田山町糸井渓谷	高田・井手 14)
1977-III-20	5 卵採集, 2 ♂ 1 ♀ 羽化	生野町黒川	井手 14)
1990-VII-7	採集記録	香住町三川山(日高町側)	木下・前平
1993-VI-25	2 ♀	浜坂町久斗山	永幡 22)

10. ミドリシジミ *Neozephyrus japonicus*

これまでに 8 産地が報告されているが、その中の金山峠・蘇武岳・名色林道・耀山を蘇武山系とし、また大筈・新屋・熱田も同様に鉢伏山系とすれば、妙見・杉ヶ沢を入れると 4 産地となる。あまりにも大まかすぎる区分けかもしれないが、本種がどのような分布域をもっているかをみるうえでのことであり、上記の産地は但馬の北西部に偏っていて、それも半径 5 km の範囲に集中していることがわかる。現時点ではそれ以外では記録の報告例がないし、採集されたという話も聞かない。

本種の分布調査は、但馬の広範囲で行われているが、上記以外にも見つかっていない生息地が存在するであろう。とくに氷ノ山周辺や南部の朝来町や生野町では、今後の調査で生息地が見つかると思う。

《データ》

氷ノ山・扇ノ山・豊岡(森尾, 赤石)・日高(金山峠) 7)

1977-VII-3		日高町金山峠付近	谷角 2)
1978-VI-27	2 ♀	金山・蘇武山系	木下 5)
- VII-29	1 ♂	金山・蘇武山系	谷角 5)
1983-VI-25		関宮町杉ヶ沢 8)	
1978-VII-13	2 ♀	日高町名色林道(蘇武岳)	木下 13)
- VII-16	1 ♀	名色林道	木下 13)
- VIII-13	1 ♀	名色林道	木下 13)
1981-VII-30	1 ♀	名色林道	福井 13)
1982-VII-3	2 ♂	村岡町大筈(大池)	木下 13)
1979-VII-14	1 ♂	大屋町杉ヶ沢	木下 13)
1977-XI-5	7 卵採集, 2 ♀ 羽化	美方町熱田	高田 14)

- X - 14	13卵採集, 1♂ 2♀ 羽化	八鹿町妙見	高田・井手14)
1992-VII-18	1♀	村岡町耀山	黒井
- VII - 19	2♀	美方町新屋	黒井

11. メスアカミドリシジミ *Chrysozephyrus smaragdinus*

本種は卵や幼虫がサクラ属の各種で比較的簡単に見つかっているのに、成虫はこれまでの記録を見るかぎり採集された個体数が非常に少ない。

成虫は川の上流域や渓谷沿いの湿潤な環境を活動域として好むようだが、ときとして草原の疎林などからも採集される（相岡・上山高原）。

今後は採卵などの調査に重点をおくことによって、多くの生息地が見つかりそうである。

《データ》

氷ノ山・扇ノ山・段ヶ峰・大屋(天滝)7)

1981-VI-20		美方町小代スキーコート	加野11)
1978-VI-27	2♂	日高町名色林道(蘇武岳)	木下13)
- VII - 1	1♀	名色林道	木下13)
- VII - 3	1♀	名色林道	木下13)
- VII - 16	1♀	名色林道	木下13)
1982-VI-7	2♂	金谷	前平13)
1983-VI-25	1♂	金山峠	福井13)
1984-VII-3	1♂	村岡町大笹(大池)	木下13)
- VII - 11	1♀	大笹	前平13)
1982-VII-11	1♀	相岡	黒井13)
- VII - 4	1♂	温泉町菅原	黒井13)
1983-VII-26	2♂	上山高原	黒井13)
1984-VI-30	2♂	上山高原	黒井13)
- VII - 8	1♂	上山高原	黒井13)
1983-VII-10	1♂	肥前畠	黒井13)
1961-VI-23	1♂	大屋町天滝	木下13)
1977-X-30	3卵採集, 2♂ 羽化	温泉町海上	高田・井手14)
- IV - 10	初齢 2頭採集, 1♂ 羽化	美方町熱田	高田・井手14)
- XI - 20	4卵採集, 1♂ 羽化	村岡町作山	高田14)

- X - 9	10卵採集, 4♂ 2♀ 羽化	日高町金屋	高田・井手・福田・小林14)
1978-IV-23	初齢 3頭採集, 1♂ 羽化	関宮町別宮	高田・井手14)
1977-III-31	8卵採集, 2♂ 2♀ 羽化	大屋町天滝	高田・井手14)
- XII-11	2卵採集, 1♂ 羽化	養父町野谷	福原14)
1976-X-10	2卵採集, 1♂ 羽化	朝来町奥多々木	糓谷14)
1977-III-15	7卵採集, 3♂ 2♀ 羽化	生野町黒川	井手14)
1984-V-20	終齢幼虫～前蛹いろいろ	山東町与布土	広畠16)
1990-VII-7	採集記録	香住町三川山(日高町側)	木下・前平
1993-VI-20	3♂	村岡町小城	黒井

12. アイノミドリシジミ *Chrysozephyrus brilliantinus*

陽が昇りかける直前に生息地を訪れると、谷筋や渓谷沿いなどの開けた場所で、ときとして多数の本種を観察することができる。気温が上昇するにしたがい個体の活動も最盛となり、追尾行動をくり返しながらいつのまにか樹上に移り、午前9時を過ぎる頃には姿を消してしまう。しかし、小雨がぱらつくような天候の状態が不安定な場合には、飛翔も弱々しく一度飛びたってもすぐ葉上に止まることが多い、このようなときには昼近くまで観察することができる。

《データ》

水ノ山・扇ノ山・大屋(天滝)7)

1978-VII-1	1♂	日高町名色林道(蘇武岳)	木下13)
- VII- 1	2♀	名色林道	福井13)
- VII- 3	2♂	名色林道	木下13)
1984-VII-16	10♂	日高町三川山	木下13)
- VII-16	8♀	三川山	福井13)
1985-VII-14	2♂	三川山	木下13)
1970-VII-4	1♀	大屋町天滝	木下13)
1984-VI-30	1♀	村岡町大笹(大池)	福井13)
- VII- 3	1♂	大笹	木下13)
- VII-11	1♂	大笹	前平13)
1983-VI-25	2♀	蘇武岳山頂	前平13)
1984-VII-1	5♂ 1♀	温泉町小ツッコ(扇ノ山)	黒井13)
- VII- 8	2♂ 4♀	小ツッコ	黒井13)

-VIII-11	1 ♀	小ヅッコ	前平13)
1977-X-30	6 卵採集, 1 ♂ 2 ♀ 羽化	温泉町海上	高田・井手14)
-X-30	3 卵採集, 1 ♀ 羽化	肥前畠	高田・井手14)
1976-III-13	4 卵採集, 1 ♂ 1 ♀ 羽化	美方町熱田	高田・井手14)
1977-XII-?	2 卵採集, 1 ♂ 羽化	小代スキ一場	小林14)
-XII-?	2 卵採集, 1 ♂ 羽化	善瀧	小林14)
1978-IX-17	1 卵採集	村岡町小代	小林14)
1977-IV-11	5 卵採集, 2 ♂ 1 ♀ 羽化	香住町三川	高田・井手14)
-X-9	3 卵採集, 1 ♂ 1 ♀ 羽化	日高町金屋	高田・井手14)
-VII-3	2 ♂	関宮町須賀ノ山	高田・井手14)
-VI-27	2 ♂	杉ヶ沢	高田・井手14)
-XI-19	3 卵採集	大屋町横行	若林・高田14)
1952-VII-21	1 ♂	生野町柄原	西村公夫14)
1983-XII-4	採卵	村岡町小城	広畑16)
1990-VII-7	採集記録	香住町三川山(日高町側)	木下・前平
1992-VII-20	採集	温泉町扇ノ山小ヅッコ	永幡
-VII-12	目撃	海上	黒井

13. ヒサマツミドリシジミ *Chrysozephyrus hisamatsusanus*

1960年代の終わりの頃には、但馬の一部の地域で生息が確認されていたようで、70~80年代にかけて地域内の各地で生息地が見つかっている。現在では南部の朝来町・生野町を除いて記録がある。

成虫は本来の生息地を離れて山頂付近に集まる習性があり、思わぬ場所で採集されることがある。また採卵も容易で、条件のよい樹では多数の卵を得ることができる。しかし、前の年に多数の卵を得た場所でも次の年にはまったく採卵できなかった経験があり、これはウラジロガシの新芽のつきの良し悪しに影響されるのかもしれない。

《データ》

1976-VII-22	1 ♂	出石町東床ノ尾山山頂	谷角 4)
1977-IV-3	6 卵採 1 ♂ 1 ♀	和田山町糸井谷	高田・井手 4)
-VI-27	5 ♂ 1 ♀	出石町東床ノ尾山	木下 4)
-XII-16	6 卵採 1 ♂ 2 ♀	出石町茗荷谷	高田・井手 4)

1978-VI-18	1 ♂	城崎町来日岳	木下13)
- VI - 26	4 ♂	来日岳	福井13)
1982-VI-17	3 ♂	大師山	福井13)
1978-VI-27	1 ♂ 1 ♀	日高町名色林道(蘇武岳)	木下13)
- VII - 1	1 ♂	名色林道	木下13)
- VII - 1	2 ♂	名色林道	福井13)
1977-VI-27	10	出石町東床ノ尾山	木下13)
- VII - 1	4 ♂	東床ノ尾山	木下13)
1978-VI-26	9 ♂	東床ノ尾山	木下13)
1979-VI-25	11 ♂	東床ノ尾山	小崎13)
1980-VI-23	4 ♂	東床ノ尾山	木下13)
- VI - 23	1 ♂	東床ノ尾山	福井13)
- VI - 23	1 ♂	東床ノ尾山	小崎13)
1981-VI-19	1 ♂	東床ノ尾山	木下13)
1982-VI-15	3 ♂ 1 ♀	東床ノ尾山	木下13)
- VI - 15	3 ♂	東床ノ尾山	福井13)
- VI - 17	3 ♂	東床ノ尾山	福井13)
1984-VI-28	4 ♂	東床ノ尾山	木下13)
- VI - 28	5 ♂ 2 ♀	東床ノ尾山	福井13)
- VII - 1	5 ♂ 1 ♀	東床ノ尾山	前平13)
1985-VI-20	1 ♂	東床ノ尾山	木下13)
1983-VII-3	1 ♂	村岡町耀山(金山峠)	黒井13)
1984-VII-8	1 ♀	温泉町小ツッコ(扇ノ山)	黒井13)
1984-VII-29	1 ♀	小ツッコ	黒井13)
1977-XI-27	8 卵採集, 1 ♂ 1 ♀ 羽化	温泉町檜尾	高田14)
1976-III-13	12卵採集, 3 ♂ 2 ♀ 羽化	美方町熱田	高田・井手14)
1977-X-10	6 卵採集, 1 ♂ 1 ♀ 羽化	浜坂町久斗山	高田14)
- XI - 29	10卵採集, 2 ♂ 1 ♀ 羽化	村岡町村岡	高田14)
1978-VI-21	1 ♂	竹野町小丸	井手14)
1977-X-12	8 卵採集, 1 ♂ 2 ♀ 羽化	城崎町来日	高田14)
1976-III-14	7 卵採集, 1 ♂ 2 ♀ 羽化	日高町金屋	若林・高田14)
- XI - 21	4 卵採集, 1 ♂ 羽化	香住町大槻	高田14)

1977-X-16	6 卵採集, 1♂ 2♀ 羽化	出石町奥山	高田14)
-X-22	6 卵採集, 1♂ 1♀ 羽化	但東町小坂	高田14)
-X-16	5 卵採集, 1♂ 1♀ 羽化	豊岡市奥野	高田14)
1978-III-5	2 卵採集, 1♀ 羽化	養父町野谷	高田14)
1977-VII-24	1♂	関宮岳須賀ノ山	福田14)
-III-31	7 卵採集, 2♂ 1♀ 羽化	大屋町天滝	高田・井手14)
-IV-3	6 卵採集, 1♂ 1♀ 羽化	和田山町糸井渓谷	高田・井手14)
1993-VI-25	1♂	浜坂町久斗山	永幡22)

現在では、蝶の研究を対象とした人の標本箱の中には、産地別にある程度の種が集まり、一時のようなミドリシジミ族の採集に熱中するということがなくなつたように思う。しかし、これまでに報告された文献をまとめてみると、産地に偏りが多く、未だ多くの問題が残されている。また、新しい生息地の解明以外にも、成虫の生息環境および日周活動がほかの種とどのように異なっているか、地域内での食餌植物の嗜好性がどうなっているかなど生態面で解ってないことが多い、まだまだ奥が深そうである。

《参考文献》

- 1) 木下賢司 (1977) 来日岳の蝶類, IRATSUME 1 :21-33.
文献13) 「但馬地域の蝶類目録」のなかにデータが重複
- 2) 谷角素彦 (1978) 日高町金山の蝶, IRATSUME 2 :11-21.
- 3) 足立義弘 (1978) 豊岡市下鶴井付近の数種のチョウ, IRATSUME 2 :22-25.
- 4) 木下賢司 (1979) 床ノ尾山の蝶, IRATSUME 3 :20-32.
- 5) 谷角素彦・足立義弘 (1979) 金山・蘇武山系の蝶類, IRATSUME 3 :8-18.
- 6) 遠藤知二 (1979) 豊岡市神野山でウラミスジシジミを採集, IRATSUME 3 :38.
- 7) 高橋 匡 (1979) 但馬地方昆虫目録 (予報第1報), IRATSUME 3 :40.
- 8) 但馬むしの会 (1980) 第2回定例採集会・杉ヶ沢高原, IRATSUME 4 :57-58.
- 9) 谷角素彦 (1980) オオミドリシジミの産卵行動, IRATSUME 4 :72-73.
- 10) 木下賢司 (1980) ヒロオビミドリシジミ日高町上ノ郷で採集される, IRATSUME 4 :71.
- 11) 島田真輔 (1982) 美方町の蝶, IRATSUME 6 :25-29.
- 12) 入江照夫 (1984) 梅雨期・杉ヶ沢高原の蝶相, ひろおび 7 :48.
- 13) 木下・前平・福井 (1986) 但馬地域の蝶類目録, IRATSUME 10:55-95.

- 14) 高田忠彦・井手敏晴 (1978) 兵庫県産蝶類調査目録 (1) シジミチョウ科
(その1), MDK NEWS.
- 15) 黒井和之 (1986) ウラジロガシからウスイロオナガシジミの終齢幼虫を採集,
IRATSUME10:42.
- 16) 広畠政己 (1987) 但馬の蝶雑記, IRATSUME11:24-26.
- 17) 黒井和之 (1988) 浜坂町城山の蝶類, IRATSUME12:11-13.
- 18) 黒井和之 (1990) 浜坂町城山の蝶類, IRATSUME12・13:44-45.
- 19) 永幡嘉之 (1992) 夏の訪れ, 因幡のむし27:50-53.
- 20) 川元 裕 (1993) 1992年度採集記録, 因幡のむし28:16-18.
- 21) 福田晴夫ほか (1984) 原色日本蝶類生態図鑑 (Ⅲ), 保育社, 大阪.
- 22) 永幡嘉之 (1994) 浜坂町久斗山のゼフィルスの記録, IRATSUME18:43.

但馬むしの会の年会費は3,000円です。会費未納の会員は速やかにお支払いください。また、本誌に寄稿された方は、原稿掲載料として1,000円をお支払いください。20号に向けて、カンパも募ります。郵便振替は、01120-3-16245、但馬むしの会、です。

但馬におけるトンボの採集記録（3）

上田 尚志

前報に続き、不均翅亜目のトンボ科、エゾトンボ科および均翅亜目の未発表の記録をまとめたものである。採集者が筆者以外の場合のみ、採集者名を付けてある。ここに挙げた記録は、標本として整理し筆者の手元に保管しているものに限り、未整理の記録や目撃記録、写真による記録、幼虫・脱皮殻による記録は含まれていない。但馬におけるトンボの採集記録(1)において、山崎喜彦氏と共同でこの作業をはじめ、続く(2),(3)では筆者の記録のみになったので、サナエトンボ科以外は山崎氏の記録が抜けている。この作業は今回で一応終了とする。

Mortonagrion selenion モートンイトトンボ

豊岡市森尾（2♂, 1988-VI-18），豊岡市氣比（1♂, 1992-VII-7）

Aciagrion migratum ホソミイトトンボ

八鹿町浅間（1♂, 1988-V-14），日高町神鍋（1♂, 1989-V-27）

Ceriagrion melanurum キイトトンボ

豊岡市氣比（2♂, 1992-VII-7），豊岡市三開山（1♂, 1983-IX-15），八鹿町浅間（2♂ 1♀, 1988-VIII-10），山東町田口（1♂, 1984-VII-5）

Ischnura asiatica アジアイトンボ

城崎町桃島（1♂, 1993-VI-26），城崎町ひのそ（1♂, 1992-VII-7），和田山町竹田（1♀, 1988-VII-9）

Ischnura senegalensis アオモンイトトンボ

城崎町桃島（1♂ 2♀, 1993-VI-9；1♂, 1993-VI-26）

Cercion calamorum calamorum クロイトトンボ

八鹿町浅間（2♂, 1985-VIII-25），日高町赤崎（2♂, 1990-VI-23）

Cercion sieboldii オオイトトンボ

八鹿町浅間（1♂, 1985-VIII-25），日高町上郷（1♂, 1988-VIII-25）

Cercion hieroglyphicum セスジイトトンボ

豊岡市上佐野（4♂ 4♀, 1990-VI-23），豊岡市新田（1♂, 1981-VI-7），豊岡市八条（1♂ 1♀, 1990-VII-8），豊岡市三開山（1♂, 1992-VIII-21），豊岡市瀬戸（2♀, 1988-V-29），豊岡市六方川（4♂, 1992-VIII-7），城崎町桃島（3♂ 3♀, 1993-VI-9），城崎町ひのそ（3♂, 1992-VII-7），八鹿町浅間（2♀, 1985-VIII-25），和田山町玉置（1♀, 1982-V-15）

Copera annulata モノサシトンボ

豊岡市三開山（1♂, 1982-IX-5；1♂ 1♀, 1988-VI-21），豊岡市六方川（2♂, 1992-VIII-7），日高町上郷（1♀, 1983-V-22；1♀, 1985-V-28），和田山町枚田岡（1♂ 1♀, 1984-VII-5），和田山町竹田（2♂, 1988-VII-9），八鹿町浅間（2♂, 1988-VII-2）

Indolestes peregrinus ホソミオツネントンボ

村岡町兎和野（1♀, 1989-IV-30），大屋町杉ヶ沢（1♀, 1982-VIII-25；1♂ 2♀, 1988-V-14；1♂, 1983-V-15），和田山町枚田岡（1♀, 1983-V-7），和田山町竹田（1♂ 1♀, 1987-IV-28），氷ノ山（1♂, 1985-VI-9）

Lestes sponsa アオイトトンボ

日高町上郷（1♂ 1♀, 1988-IX-10）

Lestes temporalis オオアオイトトンボ

豊岡市三開山（1♂ 1♀, 1988-IX-18），日高町上郷（1♀, 1986-X-9；1♂, 1988-IX-10），八鹿町浅間（3♂, 1988-X-15），村岡町大篠（3♂, 1988-X-9）

Calopteryx japonica アオハダトンボ

大屋町宮垣（3♂ 3♀, 1992-VI-13），竹野町林（2♂ 1♀, 1993-VI-12）

Calopteryx atrata ハグロトンボ

日高町赤崎（1♀, 1990-VI-23），日高町上郷（1♀, 1988-VII-6），竹野町林（1♂ 1♀, 1993-IX-10），八鹿町八鹿高校（1♂, 1988-IX-2），大屋町宮垣（1♂ 1♀, 1990-VII-28），和田山町枚田岡（1♂ 1♀, 1982-IX-6；1♀, 1988-IX-6）

Calopteryx cornelia ミヤマカワトンボ

竹野町林（1♂, 1993-VI-12；1♀, 1993-VI-21），竹野町三原（1♂, 1993-VI-21），香住町土生（3♂, 1989-VI-25），八鹿町妙見（1♂ 1♀, 1988-VII-10），和田山町糸井渓谷（1♂ 2♀, 1988-VII-5）

Mnais pruinosa pruinosa ニシカワトンボ

豊岡市市場（4♂ 1♀, 1988-V-24；3♂ 2♀, 1989-V-5；1♂ 1♀, 1989-VI-3），豊岡市畠上（2♂, 1991-V-26），日高町上郷（2♂ 1♀, 1988-V-24），日高町稻葉（2♂ 1♀, 1988-V-24），日高町阿瀬渓谷（1♀, 1992-V-10），日高町神鍋（1♂, 1989-V-27），竹野町森本（1♂, 1990-V-12），竹野町三原（3♂ 2♀, 1993-VI-21），香住町土生（3♂ 1♀, 1989-VI-25），和田山町玉置（2♂ 1♀, 1981-V-9；1♀, 1982-V-15；1♀, 1988-V-16；3♂, 1988-V-27），和田山町枚田岡（1♀, 1988-V-17），和田山町糸井渓谷（1♂ 1♀, 1988-V-21；3♂ 3♀, 1988-V-28；1♂ 1♀, 1988-VI-25；1♂ 1♀, 1988-VII-5），八鹿町浅間（2♂ 1♀, 1988-V-14；1♂ 1♀, 1988-VI-4），八鹿町妙見（1♂, 1988-VII-10），大屋町宮（1♂, 1990-V-13，山本一幸），村岡町銚子ヶ谷（1♀, 1992-VI-13），村岡町兎和野（1♀, 1990-V-3），扇ノ山（1988-VIII-1, 2♂；1♂, 1990-V-22）

Mnais nawai オオカワトンボ

豊岡市市場（6♂, 1989-V-5；2♂ 2♀, 1988-V-24），日高町名色（1♂, 1982-V-22，谷角素彦），竹野町三原（1♂, 1993-VI-21），竹野町林（3♂, 1993-VI-12）竹野町森本（1♂, 1990-V-12），香住町土生（1♀ 1♂, 1989-VI-25），出石町鳥居（3♀ 3♂, 1988-V-12；1♀ 1♂, 1990-VI-3），和田山町糸井渓谷（3♂ 5♀, 1988-V-28；1♂, 1988-VI-25）

Macromia amphigena amphigena コヤマトンボ

和田山町玉置（1♀, 1982-V-5），和田山町枚田岡（1♂, 1982-V；1♂, 1983-V）

Epophthalmia elegans オオヤマトンボ

日高町上郷（1♂, 1983-V-22；1♂, 1983-VIII-25；2♂, 1987-VIII-25）

Epitheca marginata トラフトンボ

日高町上郷（1♂1♀, 1983-V-22；1♂, 1985-V-28；1♂, 1988-V-24；2♂, 1991-V-18）

Somatochlora uchidai タカネトンボ

村岡町大笹（3♂, 1987-VIII-6），竹野町田久井（1♂, 1984-IX-24），八鹿町妙見（1♂, 1987-VIII-2），浜坂町宇都野神社（2♂, 1982-X-10，谷角素彦）

Lyriothemis pachygastera ハラビロトンボ

豊岡市氣比（3♂, 1991-V-26），和田山町竹田（2♂, 1988-VII-9），和田山町糸井渓谷（1♀, 1988-V-28），大屋町宮垣（1♀, 1990-VI-26），大屋町杉ヶ沢（1♂, 1983-V-15）

Orthetrum albistylum speciosum シオカラトンボ

豊岡市中郷（1♂, 1981-VIII-9；1♂, 1990-VIII），和田山町玉置（1♀, 1982-V-15），和田山町内海（1♂, 1988-VIII-15，長野敏彦），八鹿町妙見（1♂, 1988-VIII-9）

Orthetrum japonicum japonicum シオヤトンボ

豊岡市氣比（3♂, 1991-V-26），日高町上郷（1♂1♀, 1983-V-22；1♀, 1985-V-28；1♂, 1989-VI-29；1♂, 1989-V-7），村岡町銚子ヶ谷（1♂, 1991-V-26），竹野町三原（1♂, 1993-VI-21），和田山町玉置（1♂1♀, 1982-V-15；1♂, 1988-V-27），和田山町糸井渓谷（2♀, 1985-V-28）

Orthetrum triangulare melania オオシオカラトンボ

豊岡市中郷（1♂1♀, 1981-VIII-9），八鹿町浅間（1♀, 1986-IX-9），和田山町内海（1♂, 1988-VIII-15，長野敏彦），出石町桐野（1♂, 1990-VII-8）

Libellula quadrimaculata asahinai ヨツボシトンボ

豊岡市氣比（2♂, 1992-VII-7），日高町上郷（1♂, 1983-V-22；1♂1♀, 1985-V-28），村岡町兎和野（1♂, 1989-IV-30）

Nannophya pygmaea ハッヂョウトンボ

豊岡市森尾（1♂, 1984-VII-1；1988-VI-18, 2♂；1♂1♀, 1989-VI-3），
豊岡市三開山（2♂3♀, 1988-VI-21），豊岡市豊岡南高校（2♂, 1984-VII-1），
豊岡市市場（2♂1♀, 1982-VII-11），大屋町加保坂（2♂, 1984-IX-30），和田山町竹田

Crocothemis servilia mariannae ショウジョウトンボ

豊岡市三開山（1♂, 1982-IX-5），豊岡市伊賀谷（1♀, 1983-VI-19），日高町上郷（1♀, 1987-VIII-26），八鹿町浅間（1♂, 1988-VIII-10）

Deielie phaon コフキトンボ

豊岡市円山川公苑（1♂2♀, 1989-VII-2），豊岡市八条（1♀, 1990-VII-8）

Sympetrum pedemontanum elatum ミヤマアカネ

八鹿町妙見（1♀, 1982-VIII-11），関宮町鉢伏高原（1♀, 1982-VIII-25），香住町余部（1♀, 1989-VIII-20），香住町土生（1♀, 1989-VII-25）

Sympetrum darwinianum ナツアカネ

豊岡市円山川公苑（2♂1♀, 1989-X-14），日高町上郷（1♂, 1989-X-14；1♂1♀, 1989-X-9），八鹿町浅間（2♀, 1982-X-11），八鹿町妙見（1♀, 1988-VIII-9；1♂, 1982-VIII-11），村岡町大笹（1♂, 1982-VIII-25），竹野町三原（1♂, 1993-IX-28），竹野町林（1♂, 1993-IX-10）

Sympetrum frequens アキアカネ

日高町上郷（1♂2♀, 1986-X-9），八鹿町浅間（1♂1♀, 1983-IX-18），

八鹿町妙見（1♂ 2♀, 1988-VIII-9；1♀, 1982-VIII-11；1♀, 1982-VIII-15），竹野町三原（1♀, 1993-IX-28）

Sympetrum parvulum ヒメアカネ

日高町大岡山（1♂ 1♀, 1992-VIII-20），日高町上郷（1♂, 1986-X-10），大屋町加保坂（1♂, 1984-IX-30）

Sympetrum erotium erotium マユタテアカネ

村岡町大笹（2♂ 3♀, 1982-VIII-25），八鹿町妙見（1♀, 1982-VIII-11），八鹿町浅間（1♂, 1983-IX-18），八鹿町浅間（1♂, 1982-X-11），竹野町林（2♂, 1993-IX-10），竹野町松本（1♂, 1993-IX-10），竹野町竹野（1♀, 1993-IX-10）

Sympetrum risi risi リスアカネ

豊岡市三開山（1♂, 1982-IX-5），日高町上郷（2♂, 1987-X-10），日高町上郷（2♂ 1♀, 1986-X-13），日高町上郷（3♂, 1986-X-9），八鹿町浅間（1♂, 1983-IX-18），八鹿町浅間（1♂, 1985-VIII-25）

Sympetrum baccha matutinum コノシメトンボ

豊岡市円山川公苑（1♀, 1989-X-14），城崎町楽々浦（2♂ 1♀, 1982-X-10），豊岡市三開山（1♂ 1♀, 1983-IX-15）

Sympetrum infuscatum ノシメトンボ

日高町上郷（1♂, 1986-X-9），日高町上郷（3♂, 1987-X-10；1♂ 1♀, 1989-X-14），竹野町林（1♂, 1993-IX-10；1♂, 1993-IX-12）

Sympetrum croceolum キトンボ

八鹿町浅間（1♂, 1988-X-15），八鹿町浅間（2♂, 1982-X-11），豊岡市円山川公苑（1♂, 1982-X-10）

Pseudothemis zonata コシアキトンボ

日高町上郷（1♂, 1985-VIII-25）

Pantala flavescens ウスバキトンボ

香住町柴山 (1♂, 1982-X-10), 豊岡市氣比 (1♂, 1992-VII-7)

Rhyothemis fuliginosa チョウトンボ

八鹿町浅間 (1♂, 1986-IX-2)

参考文献

上田尚志 (1988) 日高町でハネビロトンボを採集, IRATSUME12:84.

上田尚志 (1990) 日高町でナニワトンボを採集, IRATSUME13・14:38.

上田尚志 (1993) オオエゾトンボを但馬で採集, IRATSUME17:49.

上田尚志 (1994) 円山川下流域におけるヒヌマイトンボの分布, IRATSUME18:51.

【訂正とお詫び】

IRATSUME18号に、次のような誤りがありました。謹んでお詫びをするとともに、以下のように訂正させていただきます。

- P. 33の15行目 (1ex., 16-南) (誤) → (1ex., 16-VII) (正)
- P. 38の22行目 (2exs., 16-南) (誤) → (2exs., 16-VII) (正)
- P. 39の21行目 (1ex., 16-VI) (誤) → (1ex., 16-V) (正)
- P. 39の22行目 (1ex., 27-VI) (誤) → (1ex., 27-V) (正)
- P. 42の5行目 中島清隆 (誤) → 中崎清隆 (正)
- P. 46の1行目 ウスバシロチョウの分布調査 (誤)
→ ウスバシロチョウの分布調査Ⅲ (正)

但馬におけるトンボの採集記録

永幡 嘉之・日暮 卓志

筆者の一人、永幡は、1994年秋に但馬の西部で若干のヤゴを採集した。その採集品は日暮が同定した。わずかな種類数ではあるが、分布資料としてここに報告する。日暮が但馬で採集したもの、あるいは恵与を受けた標本についても、リストに加えた。標本はすべて日暮が保管している。標本を提供してくださった方々にお礼申し上げる。学名・和名・配列は「日本産トンボ大図鑑」（講談社、1985）に従った。

1. *Calopteryx cornelia* ミヤマカワトンボ

村岡町小城（1♀, 1993-VII-4, 日暮）

2. *Mnais pruinosa* ニシカワトンボ

村岡町小城（2♂, 1993-VII-4, 日暮）

3. *Nihonogomphus viridis* アオサナエ

大屋町栗ノ下（1♂, 1994-V-24, 瀬川英作）

4. *Trigomphus melampus* コサナエ

温泉町塩山（4幼, 1994-X-16, 日暮）

5. *Davidius nanus* クロサナエ

温泉町湯谷（1♀, 1994-IV-14, 永幡），村岡町小城（1♀, 1993-VII-4, 日暮）

6. *Lanthus fuijacus* ヒメクロサナエ

村岡町兔和野高原（1♀, 1994-VI-1, 永幡），香住町御崎（1幼, 1994-XII-22, 日暮）

7. *Anotogaster sieboldii* オニヤンマ

温泉町春来（1幼, 1994-X-30, 永幡）

8. *Oligoaeschna pryeri* サラサヤンマ

大屋町栗ノ下（1♀, 1994-V-24, 葉山政治）

9. *Aeshna nigroflava* オオルリボシヤンマ

温泉町塩山（4幼, 1994-X-16, 日暮），温泉町春来（2♂, 1992-VIII-31, 永幡）

日暮；1幼, 1994-X-30, 永幡), 村岡町相岡 (1♂, 1992-VII-31, 日暮), 村岡町村岡 (6幼, 1994-X-30, 永幡), 村岡町森脇 (2幼, 1994-XI-6, 永幡), 村岡町小城 (2幼, 1994-XI-24, 永幡)

10. *Anax parthenope* ギンヤンマ

村岡町黒田 (3幼, 1994-X-30, 永幡), 美方町神場 (5幼, 1994-XI-6, 永幡)

11. *Anax nigrofasciatus* クロスジギンヤンマ

温泉町塩山 (3幼, 1994-X-16, 日暮), 村岡町黒田 (1幼, 1994-X-30, 永幡), 村岡町森脇 (4幼, 1994-XI-6, 永幡), 美方町神場 (1幼, 1994-XI-6, 永幡)

12. *Somatochlora uchidai* タカネトンボ

村岡町小城 (2幼, 1994-XI-24, 永幡)

13. *Orthetrum albistylum* シオカラトンボ

温泉町春来 (2幼, 1994-X-30, 永幡), 村岡町相岡 (1幼, 1994-XI-24, 永幡)

14. *Libellula quadrimaculata* ヨツボシトンボ

温泉町春来 (1幼, 1994-X-30, 永幡), 村岡町森脇 (2幼, 1994-XI-6, 永幡), 村岡町相岡 (5幼, 1994-XI-24, 永幡)

15. *Crocorthemis servilia* ショウジョウトンボ

温泉町春来 (2幼, 1994-X-30, 永幡)

但馬地方の昆虫相に関する文献

(兵庫県甲虫相資料・297)

高橋 寿郎

高橋匡氏がIRATSUME No. 3 (1979) 誌上で、「但馬地方の昆虫相に関する文献資料（補遺1）」として発表された次の文献を一度見たいものだと思っていた。

- ①山本茂信：妙見山資料館奉納 妙見山昆虫採集目録 B5, 4p. (1962)
- ②妙見山資料館：妙見山生物資料館報（第2号） B5, 22p. (1963)
- ③妙見山資料館：妙見山生物資料館報（第3号） B5, 18p. (1964)

1994年7月、同氏の御好意でこれらの文献を見せていただくことができた。

以上の3文献は、養父郡八鹿町石原にある日光院（妙見山麓）の資料館に保管されている八鹿高校、豊岡高校による妙見山を主体とした収集標本をまとめ、記録したものである。①のみ当時豊岡高校で教鞭をとっておられた山本茂信先生の著になっているが、②③は豊岡高校生物部による整理記録のようである。

各文献に収録されている昆虫類の種数は、高橋匡（1979）が簡単に解説している。ただすべて和名のみで、学名が全くない。それとミスプリントと考えられる種名がある。例えばシヤコガネ、イイロビロウドコガネ、フジコガネ、ヒナコガネなどである。採集データはついている。この中で注目すべき記録として、オオダイセマダラコガネ、コヒゲシマビロウドコガネがある。特にコヒゲシマビロウドコガネは、遊磨正秀博士が養父郡大屋町田淵山（上記妙見山に近いところ）で夜間採集をされ、その採集品の一部を恵与いただいた中に2♀があり、筆者が兵庫県初記録として報告した（きべりはむし Vol. 5, No. 1・2, 1977）。ところが、この妙見山昆虫採集目録の中に1ex. の記録が既にあったことになる（1962）。この種は、兵庫県下では上記2地点の記録しか知られていない珍品である。わりと近い距離で採集されているので、この付近には分布しているものと思われる。

高橋氏の連絡によると、一昨年に起きた日光院の庫裏の火災により、資料その他は焼失したこと。この3文献もほとんど現存していないと思われる（山本茂信先生からも、文献が残っているかどうかわからないとお電話いただいた）。いずれにしても、貴重な文献を見て下さった高橋氏に厚く御礼申しあげる。

クロバネヒメテントウが自宅電灯に飛来 (兵庫県甲虫相資料・298)

高橋 寿郎

1994年7月15日の21時過ぎ、自宅（神戸市兵庫区氷室町）の電灯に小型のテントウムシが飛來した。この個体は、体長1.7mm、頭・前胸・体下面が黄褐色、眼が黒色、上翅も黒色でやや光沢があるが全面に軟毛を有し、体下面も光沢がある。いろいろ検討してみたが、Kamiya (1965) が沖縄本島と西表島産で記載したクロバネヒメテントウ *Axinoscymnus nigripennnis* と同定した。その後、佐々治 (1985) は原色で図説し、分布に台湾を加えている。

1994年の夏は連日すごい猛暑で（神戸新聞によると神戸地方の7～8月は100年に一度の暑さとのこと）、南の方にいる虫たちがなんらかの方法で飛來したのかとも思う（7月19日夜にも1頭が電灯に飛來した）。

兵庫県新記録種であると同時に、本州新記録になると考えられるので、ここに記録しておく。

参考文献

- Kamiya, H. (1965) Coccinellid-Fauna of the Ryukyu Islands, South of the Amami Group (Coleoptera), Kontyu 33 (1) :100-101.
佐々治寛之 (1985) 原色日本甲虫図鑑 (Ⅲ), 保育社, 大阪.

兵庫県のハムシ研究史（1）

（兵庫県甲虫相資料・299）

高橋 寿郎

ハムシ類（Chrysomelidae - Leaf Beetles）は、甲虫類（Coleoptera）の中でも大きなグループの一つである。すべて食植性で、大部分が害虫としてわれわれの生活にも直接、間接の関係を有する。

日本ならびにその近隣諸国のハムシ類はよく研究されており、その概要もほぼわかっている（木元新作・滝沢春雄、1994）。

兵庫県におけるハムシについて、これまでの多くの方々の研究をもとに、筆者が1994年5月にまとめたところ、278種の記録がある。日本産ハムシは16亜科163属590種で、そのうち本州に分布しているのは454種（うち2種は分布に問題あり、木元新作・滝沢春雄、1994），したがって、本州産の6割くらいが県下に産することがわかっている。

各種についての記録の集積も相当量になっている。このあたりで兵庫県のハムシとしてのまとめを発表する必要がありそうで、目下その方法について検討中である。その一環として、兵庫県産ハムシの研究史を分割発表させていただきたいと思う。

研究史をまとめるにあたり、次の観点で文献を選んだ。1. 兵庫県産のハムシで記載された論文。2. 兵庫県全般、特定の地域のハムシ相をまとめた論文。

それ以外の県産ハムシについての文献類は、筆者が別途まとめて発表している「兵庫県産甲虫類に関する文献目録」（1975, 1981, 1984, 1993. 1830編収録）、「きべりはむしに関する文献目録」（1990）を参照いただきたい。

本文を草するにあたって、多くの方々の御援助、御指導をいただいている。紙面の都合上いちいち芳名を記さないが、厚く御礼申しあげる。

1873. Baly, J.S., Catalogue of Phytophagous Coleoptera of Japan, with descriptions of the species new to Science. Trans. ent. Soc. London, Part I :69-99.

G. Lewis の日本での採集品にもとづくハムシ相の研究で、兵庫県産は9種記録

され、うち 6 種が新種記載である。これら新種記載種のみ次に記す。

P. 69. *Donacia aeraria* Baly = *Donacia lenzi* Schoenfeldt ネクイハムシ Hiogo

P. 70. *Lema concinnipennis* Baly キバラルリクビボソハムシ Hiogo

P. 74. *Lema dilecta* Baly スゲクビボソハムシ Hiogo

P. 81. *Coptocephala orientalis* Baly ヨツボシアカツツハムシ Hiogo

P. 89. *Cryptocephalus scitulus* Baly カシワツツハムシ Hiogo

P. 94. *Cryptocephalus fortunatus* Baly キアシルリツツハムシ Hiogo

なお、P. 80. *Clythra laeviuscula* Ratzebrg = *Clytra arida* Weise ヨツボシナガツツハムシ Hiogo, a single specimens found on the oak この種は、この報文で日本からの初記録種となる。

1874. Baly, J.S., Catalogue of Phytophagus Coleoptera of Japan, with descriptions of the species new to Science, Part II . Trans. ent. Soc. London, Part I :161-217.

前年度（1873）の報文に続く第 2 報。多くの日本産新種記載がある。兵庫県産では次のように新種ならびに新記録種がある（命名者名のないものが新種）。

P. 177. *Galleruca*(=*Pyrrhalta*) *annulicornis* ブチヒゲケブカハムシ Hiogo

P. 178. *Galleruca sagittariae* Gll. = *Galerucella nipponensis* (Laboissiere) ジュンサイハムシ Hiogo

P. 179. *Aenidea*(=*Fleutianxia*) *armata* クワハムシ Hiogo

P. 184. *Arthrotus variabilis* = *Anthrotus niger* Motschulsky ムナグロツヤハムシ Hiogo

P. 184. *Arthrotus*(=*Stenaluperus*) *cyanea* ルリウスバハムシ Hiogo

P. 194. *Saeboethe*(=*Hemipyxis*) *flavipennis* キバネマルノミハムシ Hiogo

P. 213. *Cassida vespertina* Boheman コガタカメノコハムシ Hiogo

P. 214. *Coptocycla*(=*Thlaspida*) *lewisi* ルイスジンガサハムシ Hiogo

P. 215. *Hispa japonica* = *Dactylispa angulosa* (Solsky) ヒメキベリトゲハムシ Hiogo

P. 216. *Hispa*(=*Dactylispa*) *subsquadrata* カタビロトゲハムシ Hiogo

上記 2 論文は Motschulsky の論文以降初めての日本産ハムシ科の研究で、数多くの新種が記載されている。

兵庫（神戸）産でも14新種が記載され、2種が日本初記録となっている。現在の知見で、学名を変更しなくてはならないものもあるが、兵庫県産ハムシ科研究で初めての論文として貴重なものである。

1875. Harold, E.v., Verzeichniss der von Herrn T. Lenz in Japan gesammelten Coleopteren. Abhandl. Nat. Ver. Bremen, IV :283-296.

Tuison Lenz は商人として1874～1880年の間神戸に在留した。その間に甲虫類を採集し、その採集品を基にして Harold は 2 編の論文を発表しており、本報はその第 1 報である。

ハムシはアカガネサルハムシ 1 種しか記録されていない。産地は明確に記録されていないが、神戸（Hiogo）産と考えられる。

1876. Harold, E.v., Bericht ueber eine Sending Coleopteren aus Hiogo. Abhandl. Nat. Ver. Bremen, V :115-135.

前記の第 2 報。ハムシはヨモギハムシ、ヒメカミナリハムシの 2 種の記録がある。産地は表題のごとく Hiogo（神戸）産。

1879. Heyden, L., Die Coleopterologische Ausbeute des Prof. Dr. Rein in Japan 1874-1875. Deut. Ent. Zeit., X X III , Heft. II :321-365.

本編は、Dr. Rein の日本での採集品のうち、甲虫類のみを同定した報文である。Dr. Rein は明治 8、9 年の 2 年間、東京ドイツ大使館の顧問として日本に滞在し、本州、四国、九州の昆虫類を採集した。神戸では 6、7、8 月の昆虫最盛期に採集を行い、報じられた 152 種のうち、兵庫県からは 66 種と一番多く記録している。もっとも Lewis などの記録も含んでいる。

ハムシはヨツボシナガツツハムシ、オオサルハムシ、ヨモギハムシ、ヒメカミナリハムシ、クワハムシの 5 種が記録されている。

1885. Jacoby, M., Description of Phytophagous Coleoptera of Japan, obtained by Mr. George Lewis during his Second Journey, from February 1880 to September 1881. Part I . Proc. Zool. Soc. London 1885:190-211. pl.4.

G. Lewis の 1880 年 2 月から 1881 年 9 月までの日本における採集旅行の結果をまとめたもので、多くの日本産ハムシ科の新種記載が含まれている。Hiogo, Kobe 産として次の 2 新種が記載されている。

P. 204. *Demotina bipunctata* Jacoby フタモンアラゲサルハムシ Kobe

P. 209. *Phytodecta robustus* Jacoby = *Gonioctena(Sinomela) nigroplagiatus* Baly ヤツボシハムシ Hiogo

1885. Jacoby, M., Descriptions of Phytophagous Coleoptera of Japan, obtained by Mr. George Lewis during his Second Journey, from February 1880 to September 1881. Part II . Halticinae and Galeurcinae. Proc. Zool. Soc. London 1885:719-755.

前記の第2報で、ヒゲナガハムシ、トビハムシ亜科のものが扱われており、神戸産で次の3新種の記載がある。

P. 731. *Phyllotreta*(=*Luperomorpha*) *tenebrosa* Jacoby キアシノミハムシ Kobe

P. 724. *Luperus longicornis* Jacoby = *Stenoluperus nipponeensis* Laboissiere ヒゲナガウスバハムシ Kobe

P. 750. *Aenidea*(=*Taumacera*) *tibialis* Jacoby クロバヒゲナガハムシ Kobe, Maiyasan

1885. Gorham, H.S., Revision of the Phytophagous Coleoptera of the Japanese Fauna: Subfamily Cassidinae & Hispinae. Proc. Zool. Soc. London 1885:280-286.

G. Lewis の Catalogue of Coleoptera from the Japanese Archipelago (1879) に記録されているカメノコハムシ、トゲハムシ亜科の再検討をした論文。Lewis の採集で、Baly が Hiogo 産で記載したトゲハムシ、カタビロトゲハムシはそのまま収録されている。

1887. Schoenfeldt, H.v., Catalog der Coleoptern von Japan mit Angabe der bezüglichen Beschreibungen und der sicher bekannten Fundorte. Jahrb. d. nass. Ver. f. Naturhunde, 40:31-204.

この時代までに日本から記録された甲虫類のリストで、原記載名も一緒に示してある。この目録での新種記載はない。現在では学名の変わっているもの、シノニムで消えるものなどもある。

ハムシ科では Hiogo, Kobe の産地で34種が記録されている。

1888. Schoenfeldt, H.v., Eine neue *Donacia* aus Japan. Ent. Nach. Jahrag. X IV (3):33-34.

Hiogo より *Donacia lenzi* Schoenfeldt ネクイハムシの新種記載。

1888. Schonfeldt, H.v., Catalog der Coleoptern von Japan, Erster Nachtrag. Jahrb. d. nass. Ver. f. Naturhunde, 41:44-49.

前記リストの追補で、兵庫県からのハムシは前記したネクイハムシ1種しか入っていない。

1901. 大上宇一, 播磨産金花虫科. 動物学雑誌 13(156):323-326.

播磨産ハムシ35種を記録している. 和名だけのもの, あるいは和名と学名のつけられたものがあり, 若干の解説はついているが, 標本が現存していないだけに, これで的確な判断をすることは難しい.

日本人による兵庫県産ハムシの記録として最初のものであるだけに, 貴重であると共に残念でもある.

1902. 大上宇一, 播磨産甲虫類報知. 動物学雑誌 14(167):344-348.

ハムシは9種記録されている. 和名のみで学名はない(2種属名のみ記されている).

1907. 大上宇一, 播磨産甲虫類(承前). 昆虫世界 11(118):244-245.

播磨産ハムシとして32種記録されている. 今回は学名がついているので, ほぼ種の判定はできる(中に属名のみのものが2種ある). 和名と学名の羅列であり, 産出状況とか採集データなどが全くない報文である.

1916. Fleischer, Neue Chrysomeliden aus Japan. Wiener Ent. Zeit. Jahrg. XXV, Heft. 5/6:222-223.

Harima 産ハムシ3新種の記載がある. いずれも現在はシノニムで学名が変わっている.

P. 222. *Crepidodera(Crepidomorpha) carinulata* Fleischer = *Liprus punctatostriatus* (Motschulsky)
ナガトビハムシ Harima

P. 223. *Luperus(Calomicrus) japonica* Fleischer = *Calomicrus cyaneus* (Jacoby) ハラグロヒメ
ハムシ Harima

1929. Roubal, J., Coleoptera nova asiatica. Bull. Soc. Ent. Italiana 61(5/6):96-98.

P. 97. Kobe, *Dioryctus oglobini* Roubal なる新種記載である. 本種は現在 *Adiscus lewisii* Baly タマツツハムシのシノニムとして扱われている.

1932. Kuwayama, S., Studies on the Morphology and Ecology of the Rice Leaf-Beetle, *Lema oryzae* Kuwayama, with species reference to the taxonomic aspects. Jour. Fac. Agr. Hokkaido Imp. Univ. 33(1):1-132.

次の兵庫県下からの記録が含まれている。

- P. 69. *Lema concinnipennis* Baly キバラルリクビボソハムシ Hyogo, Prov. Settsu (after J. S. Baly)
- P. 70. *Lema dilecta* Baly スゲクビボソハムシ Hyogo, Prov. Settsu (after J. S. Baly)
- P. 73. *Lema honorata* Baly ヤマイモハムシ Takasago, Prov. Settsu (July leg. S. Matsumura)
- P. 79. *Lema decempunctata* Gebber トホシクビボソハムシ Hyogo, Prov. Settsu (April, 14, 1914. S. Hirayama leg.)

1932. 桑山覚, 稲泥負虫に関する研究 第二報 稲泥負虫の分布. 北海道農事試験場報告 No. 29: 73-96.

当時の日本における *Oulema oryzae* (Kuwayama) イネクビボソハムシ（本論文では *Lema* 属）の分布を述べたもので、台湾、朝鮮の分布にも言及している。

兵庫県下での分布は、但馬地方のみ知られているとなっている。現在でも県の中央部あたりから北に分布しているように思われる。

1933. 関公一, 御影町附近産の甲虫目録（其の三）. 昆虫界 1(5): 491-494.

大上宇一氏の播磨産甲虫目録以降、久しぶりに現れた県下産甲虫目録である。御影町即ち神戸市東部を中心に、摩耶山・六甲山を含めた甲虫目録で、詳しい产地や採集データはないが新記録種も多く、比較的同定し易いものが多いので、その同定もあまり間違はないように思う。

ハムシは29種記録されている。普通にみられるものが大部分であるが、なんといってもキベリハムシの記録されていることは特筆もので、本種が日本（本州）で発見され、文献上に公表された第一号になるのではと考えられる。ただ残念なことに、採集場所や月日など全くなく、もちろんコメントもついていない記録となっている。

1933. 人見一馬, 質疑. 昆虫界 1(6): 656.

六甲山中腹にて8月6日、キベリハムシ採集についての質問である。これに対して加藤正世博士も、同年那須範子氏の標本（神戸産）をもらった記録。台湾産と異なる旨記している。同時に湯浅啓温博士の本種（キベリハムシ）についての解説も出ているが、同博士は台湾からは未記録ではなかったのかと書いている。

1934. 生田豊一, キベリハムシの産地. 昆虫界 2(7):118.

神戸篠原での記録(20.VIII.1933). 同時に加藤正世博士により, 江崎悌三博士が中学時代(大正2年頃-1913)既に本種が大阪付近に産し, その標本をもっているという記録がある.

1934. 足立輝一, 生徒採集昆虫調査報告. 少年昆虫界 1(2):32(昆虫界 Vol. 2, No. 8に含まれる).

神戸一中の夏期宿題の採集品を調べた結果をまとめたものである. 注目すべき種についての解説はついているが, データ等は全くない. 産地も恐らく兵庫県下, 神戸市中心だろうと思うが詳しくはわからない.

ハムシ科は5種で非常に少ない. キベリハムシは数頭採集されていたとあるが, 採集地の記入がない. 六甲山系だと考えられる.

1934. Chujo, M., Studies on the Chrysomelidae in the Japanese Empire (VII). Trans. Nat. Hist. Soc. Formosa 24(135):518-537.

P. 528. *Donacia provostii* Fairmaire イネネクイハムシを G. Lewis が Hyogo (7.VI.1881) から採集した記録がある.

1937. 平山修次郎, 原色千種續昆虫圖譜. (三省堂, 東京)

pl. 74, f. 2に兵庫県六甲山産キベリハムシ(V・VIII, 1936)の図説あり.

1937. 横山光夫, 環境とFamily 昆虫の大坂(そのI). 昆虫界 5(45):797-809.

神戸を中心とした産地について若干説明がある. 特に, 六甲山でキベリハムシを一人で二百数十頭採集したとある.

1938. 田中光照, きべりはむし. 兵庫県中等教育博物学雑誌 I :57-58.

神戸市夢野大師登り口旭ヶ丘および鳥原産の本種を飼育した結果をまとめて発表したもので, 本種の形態, 生態についての報文として初めてのものである. 紙面の都合で, 飼育状況などが割愛されているのは残念である.

1938. 松本賢吉, キベリハムシに関する知見. 日本の甲虫 2(2):65-67.

六甲山麓高座瀧付近より鶴越にいたる, 六甲山脈南側に分布することを述べる

と共に、本種の形態、生態を図入りで記述した報文。

1938. 鎌木渡、キベリハムシ。昆虫界 6(58):885-888.

六甲山（1930），芦屋高座付近，鳥原貯水池（1935）などに産することを記録。
同時に本種の生態、形態を記述した報文。

1939. 高橋寿郎、神戸産甲虫雑記（1）。兵庫県博物学会々誌（18）:51-53.

キベリハムシの産出状況の記あり。

1939. 高橋寿郎、キベリハムシの新産地報告。昆虫世界 43(508):374-375.

神戸市板宿、多井畠での産の報告。

1939. Gressitt, J.L., East Asian Hispinae and Cassidinae in the collection of the California Academy of Science. Pan-Pacific Ent. 15(3):132-143.

表題のごとく、サンフランシスコにある California Academy of Science に保管されている東アジア地域で採集されたトゲハムシ・カメノコハムシ科についてまとめたもので、新種記載も入っているが、日本産ではない。

次のように兵庫県産標本が2種ある。

P. 142. *Cassida(Cassida) lineola* Creutzen, 1799 クロスジカメノコハムシ one at Harada, kobe, Japan. June 13, 1911, J. E. A. Lewis leg.

P. 143. *Cassida(Cassida) piperata* Hope, 1842 ヒメカメノコハムシ one was taken at Kobe, Japan, in February, 1909, J. C. Thomson.

1939. 田中靖也、昆虫採集、宝庫之鍵。Natura (9):1-27.

神戸付近、主として鳥原貯水池周辺の採集地での産出種を解説。キベリハムシを含むハムシ類の記録がある。

1940. 高橋寿郎、キベリハムシに就いて。昆虫界 8(72):104-112.

鳥原貯水池付近産を中心に形態、生態について報告した。

1941. 高橋寿郎、鳥原附近産ハムシ科に就いて（1）。昆虫界 9(88):399-401.

第1回として13種のハムシを記録したが、珍しいものはない。採集データを示

していない。

1941. 増田猛・橋本直也, 一中附近の昆虫. A5. 39p. (孔版, 単行本).

神戸一中（現神戸高校）付近産の蝶と甲虫の目録である。甲虫の担当が上記の2氏である。同定の誤りもあるようだし、現在の知見から相当数の学名の変更などもある。ハムシ科は65種とわりと多く、注目種も含まれている。キベリハムシの記録もある。各種にデータはついていないが、コメントはついている。

1943. 高橋寿郎・萬濃誠三, 神戸産金花虫科 (1-3). 昆虫世界 47(554-556)
:233-235, 249-251, 270-271.

1944. 高橋寿郎・萬濃誠三, 神戸産金花虫科 (4-7). 昆虫世界 48(557-560)
:8-9, 28-30, 49-50, 69-70.

神戸市鳥原貯水池畔で採集したハムシ類のまとめで、各種についての若干の説明はあるものの、採集データはついていない。

以上で、いちおう戦前の研究史は終わる。

但馬の蝶に関する覚え書き

谷角 素彦

1. 城崎郡竹野町でナガサキアゲハを目撃

筆者は1993年9月28日、竹野町竹野にてナガサキアゲハ *Papilio memnon* 1♀を目撃している。近年、本種は分布を東進させており、黒井（1990）によると但馬地方では浜坂町・香住町・城崎郡（町名不詳）・豊岡市・日高町・出石町で記録されているが、竹野町では未記録であった。

2. 美方郡浜坂町におけるイシガケチョウの古い採集例

筆者は小学1年まで、浜坂町で過ごした。幼少時より虫採りに興じ、家の近所で捕虫網をもって遊ぶのが常であった。小学校に入り、仲良くなったT君と一緒に宇都野神社に虫採りに出かけた。このとき、神社の石垣に止まっているイシガケチョウ *Cyrestis thyodamas* 1頭を採集した。「蛾のような変な蝶だな」という感想を抱いたことを覚えている。T君はミドリヒョウモンを採っており、お願ひしてイシガケチョウと交換してもらった。蛾のような蝶より、当時憧っていたヒョウモン類のほうが、魅力があったのだ。今から考えると、もったいないことをしたものだが、少年時代の懐かしいひとこまである。このときの情景は記憶に鮮明に残っている。

データははっきりしないが、小学1年（1962年）の初夏の頃で、採集したのは♂であったと思う。

難波（1994）によると、但馬地方のイシガケチョウの最も古い記録は1959年9月13日に大屋町で採集された1♂で、2例目は1978年7月11日に日高町で採集された1♂、記録が増えてくるのは1992年以降となっている。

参考文献

黒井和之（1990）但馬地方におけるナガサキアゲハの記録について、

IRATSUME13・14:70-71.

難波通孝（1994）“1994”イシガケチョウの飛翔、自刊。

《IRATSUME投稿規定》

1. 原稿は横書き原稿用紙に、わかりやすく書いてください。
2. 報文には「～である」調を用い、句読点もはっきりさせてください。
3. ワープロで原稿作成する場合は、句読点にピリオドとコンマを使用してください。また、印字したものとフロッピーディスクの両方をお送りください。
4. 種名は和名を主としますが、記録報告の場合には学名も表記してください。
その際、学名は必要最小限にとどめてください。
5. 分類の紛らわしい種や貴重な記録には、標本写真を付けてください。
標本撮影は編集事務局でも行えますので、ご利用ください。
6. 採集データは、次のような形式で記してください。
1♂ 2♀, 兵庫県美方郡温泉町青下, 1989-V-15, 黒井和之採集。
7. 参考文献は、次のような形式で記してください。
佐藤邦夫 (1987) 但馬地方のカミキリムシ, IRATSUME11:72-90.
8. 付図や表組は、そのまま使える完全版下として仕上げてください。
IRATSUMEの誌面にうまく収まるよう工夫してください。
9. 原稿は充分に推敲・校正してから、ご投稿ください。とくに、わかりにくいや表現や無駄な表現がないか、主語と述語がはっきりしているか、数字や学名のスペルに誤りがないかなどについて、チェックしてください。
10. 誤同定やデータに大きな誤りを含んでいる原稿は、掲載をお断りする場合があります。
11. 寄稿者は掲載誌3部を受け取り、原稿掲載料として1000円を事務局（郵便振替：01120-3-16245 但馬むしの会）に支払います。
12. 原稿についてのお問い合わせは、谷角素彦まで。

